

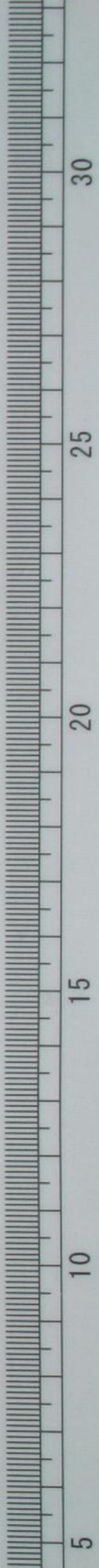


養病漫筆

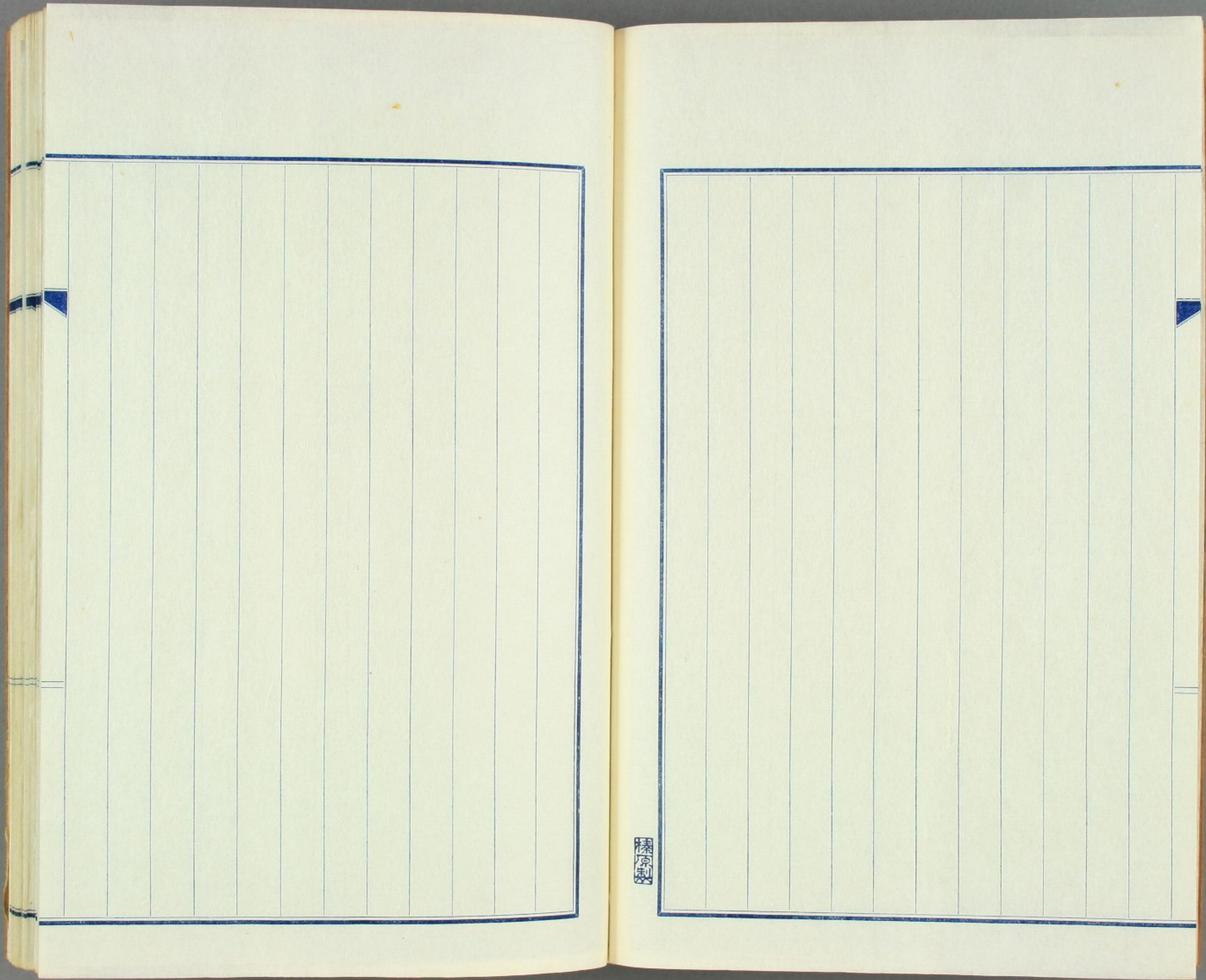
四

昭和十五年九月上浣起筆

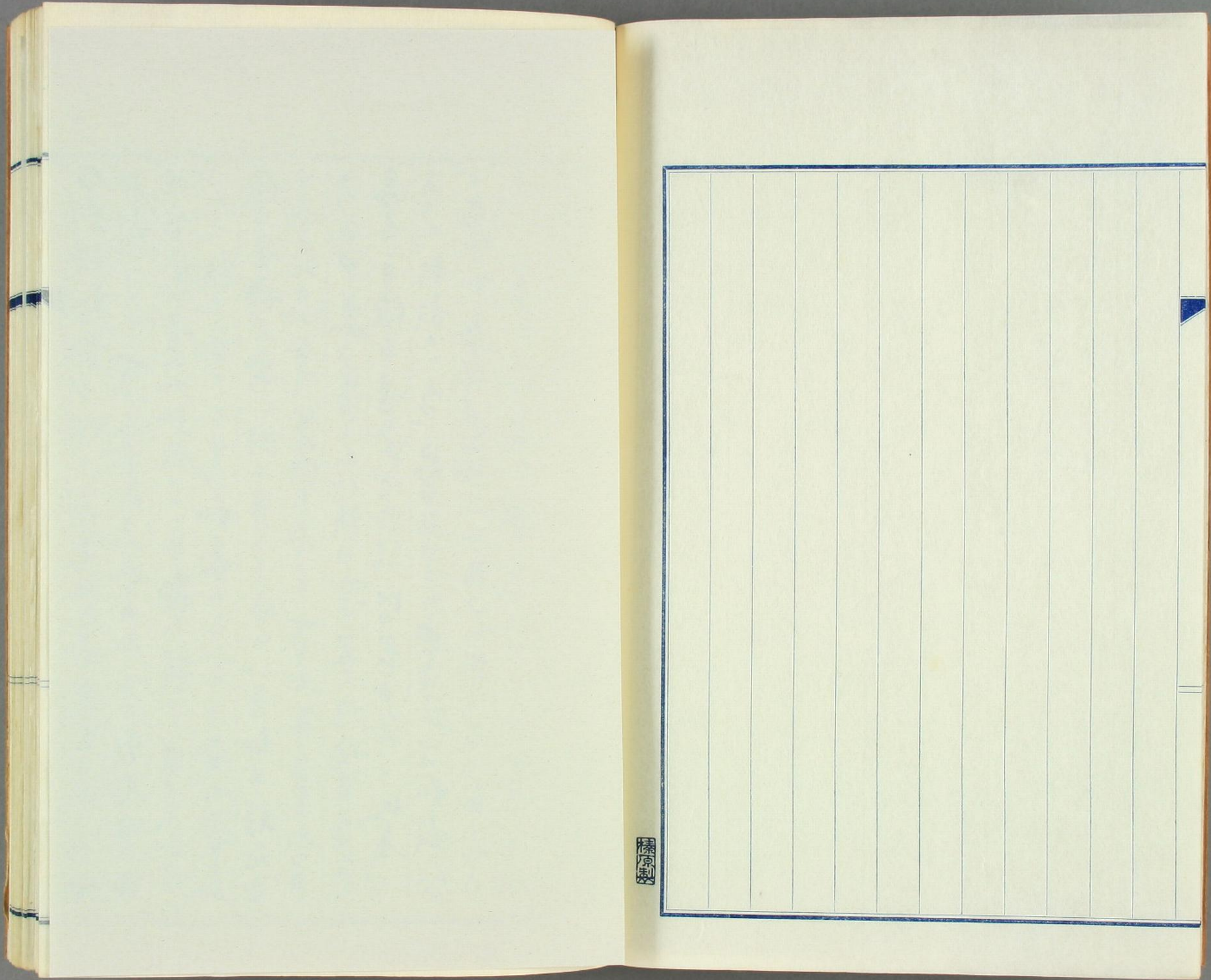
特別
14
1919
505



未開白の文化の隆く例なき進歩、最近百年間の進歩は世界に類
例と爲つ程の結果を生じ、外國と戦を交へて常に其が勝利
に帰し、忽ち此と世界地圖の廻り入った、二十六百年を祝福する
決して國友の長壽を祝するのみならず



林原



羅氏

○別項印人から贈るは先生の先生のおまじり
弘毅とて可くふとあふ余のおまじり頼吉様の坊
物方々に書いた弘毅の二字教不揚せしあつておの
つかり教と書とさす弘毅の二字も余のまじり
所心香坪の教に此二字もあつたに京都の坊を
こまめたのむさ弘毅のまじり七十七のおまじり
先生申忘に四推えん後のまじり又くく鳴るや白く
あつて弘毅のまじり思ひ出さる奥まじり弘毅の
と推しに家花のまじり三と推し一推のまじりあつて
書画をまじり一推のまじり奥まじり坊のまじり中まじり
いであつて

深淵

○拙及めあつた二宮及次くは先生の奥まじり坊のまじり
く一行のまじり右の海に起す

士ふ可以不弘毅任事命全遠

七十七のおまじり坊のまじり

家花のまじり二推のまじり坊のまじり

弘毅とあつたまじり二推のまじり坊のまじり白雲のまじり

と前存二推のまじり坊のまじり大陽のまじり坊のまじり

のまじり坊のまじり坊のまじり

木に像をまじり坊のまじり坊のまじり坊のまじり坊のまじり

坊のまじり坊のまじり坊のまじり坊のまじり坊のまじり

比類のまじり坊のまじり坊のまじり坊のまじり坊のまじり

知のまじり坊のまじり坊のまじり坊のまじり坊のまじり

十一のまじり坊のまじり

○十月廿四日、奉皇詔、今天皇陛下の宸臨を仰き、御令創之五十
年式典を行ふ事と、常と改定せらるゝ事も、御内札に
令々奉行の事由あり故と、以て行へ給ふ事、紀念の爲め其の
祝状と、所爲の由札と、互に存し置く。

御覽

参 列 記 1

衆

市島謙吉 殿

控室 第一委員室

證換引

参列者注意

一、出 缺

同封ノ葉書ヲ以テ折返シ出缺ヲ通知セラレタシ

二、服装及参著時刻

- (1) 服装ハ「フロックコート」又ハ「モーニングコート」トス
(帽子ハ随意) 奉迎及奉送ノ際ハ帽子ヲ携帯セザルコト
服制アル向ハ右ニ相當スル服装トス
- (2) 勳章ハ略章ヲ佩用セラレタシ
- (3) 當日ハ同封ノ参列證ヲ必ず持参ノ上午前九時二十分迄ニ議
院ニ参著セラレタシ

通 路

(イ) 紅色自動車標識封入ノ向ハ貴族院正門ヲ入り貴族院
正玄関へ

(ロ) 白色自動車標識封入ノ向ハ衆議院正門ヲ入り衆議院
正玄関へ

尙當日ハ午前九時三十分ニハ正門ヲ閉鎖スベキニ付萬一遅刻ノ
トキハ通用門ヨリ参院セラレタシ(午前九時五十分以後ハ通行
禁止)

三、受付及控室

- (1) 正玄関受付ニテ参列證ヲ呈示シ参列徽章ヲ受取り直ニ之ヲ
左肋ニ佩用ノ上参列證記載ノ控室ニ入ラレタシ

四、奉迎、奉送及式場ノ出入

- (1) 親 任 官
親任官ハ中央廣間ニテ奉迎後式場ニ入り式典終了後中央廣
間ニテ奉送ス(總テ係員案内ス)
- (2) 貴族院議員及衆議院議員
貴族院議員及衆議院議員ハ午前十時迄ニ正門内所定ノ位置
ニ整列奉迎シ、奉迎終リテ式場ニ入ラレタシ、式典終了後
ノ奉送位置ハ奉迎ノ際ニ同ジ
- (3) 其ノ他ノ参列者
右ニ關スル順路其ノ他ハ開院式ノ場合ニ同ジ
其ノ他ノ参列者ハ控室ヨリ係員ノ案内ニテ式場ニ入り式典
終了後係員ノ案内ヲ俟テ控室ニ入ラレタシ

五、記念品

- (1) 親任官、貴族院議員及衆議院議員ハ奉送後、其ノ他ノ参列
者ハ式典終了後各控室ニ於テ記念品引換證ト引換ヘニ記念
品ヲ受取ラレタシ
- (2) 當日缺席者ニハ記念品ハ後日郵送スベキニ付代理ニテ受取
ラルコトハ謝絶ス

六、帝國議會開設ニ關スル史料供覽

- (1) 帝國議會開設ニ關スル史料ヲ貴族院豫算委員室ニテ供覽ス
式典終了後隨意觀覽アリタシ

七、其ノ他

- (1) 議員食堂ニ式典終了後茶菓ノ準備アリ
- (2) 救護所ノ設アルニ付必要アル場合ハ係員又ハ守衛ニ申出デ
ラレタシ

本式典ニ關スル御問合ハ兩院事務局庶務課ニ願ヒタシ

市島謙吉殿

謹啓來十一月二十九日帝國議會開設五十年
記念式典ヲ貴族院議場ニ於テ舉行致候ニ付
御參列被成下度御案内申上候 敬具

追而當日ハ 行幸仰出ノ御内意アル旨承居候
昭和十五年十一月十五日

衆議院議長 小山松壽
貴族院議長 伯爵 松平賴壽

帝國議會開設五十年記念式典

昭和十五年十一月二十九日
於 貴 族 院 議 場

式 次 第

- 一、參列員入場
- 一、皇族方御臨場
- 一、出 御
- 御先導 貴族院議長
- 一、貴族院議長式辭
- 一、衆議院議長式辭
- 一、內閣總理大臣祝辭
- 一、萬歲奉唱 發聲 貴族院議長
- 一、入 御
- 御先導 衆議院議長
- 一、皇族方御退場
- 一、參列員退場

(一同最敬禮)

(一同唱和)

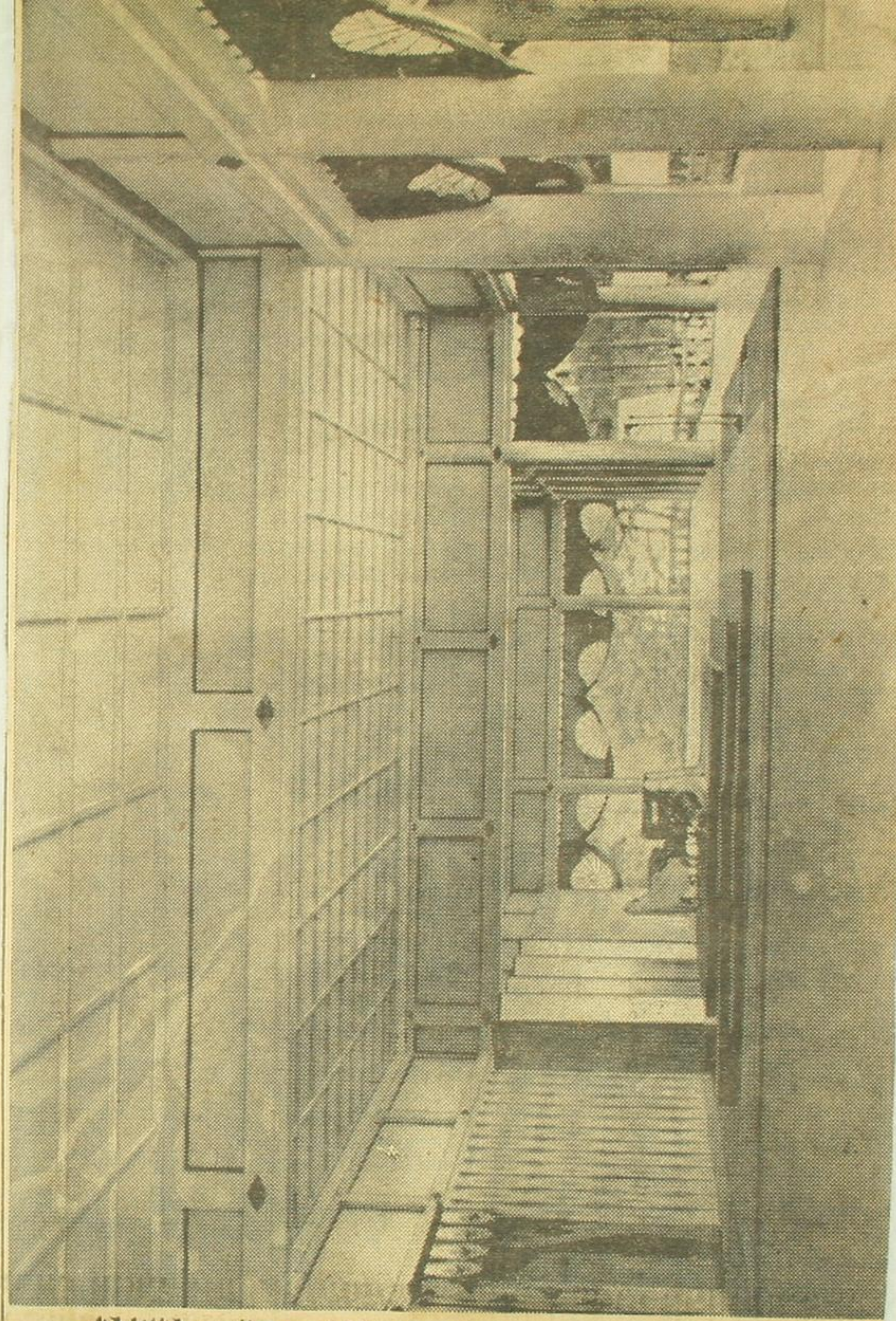
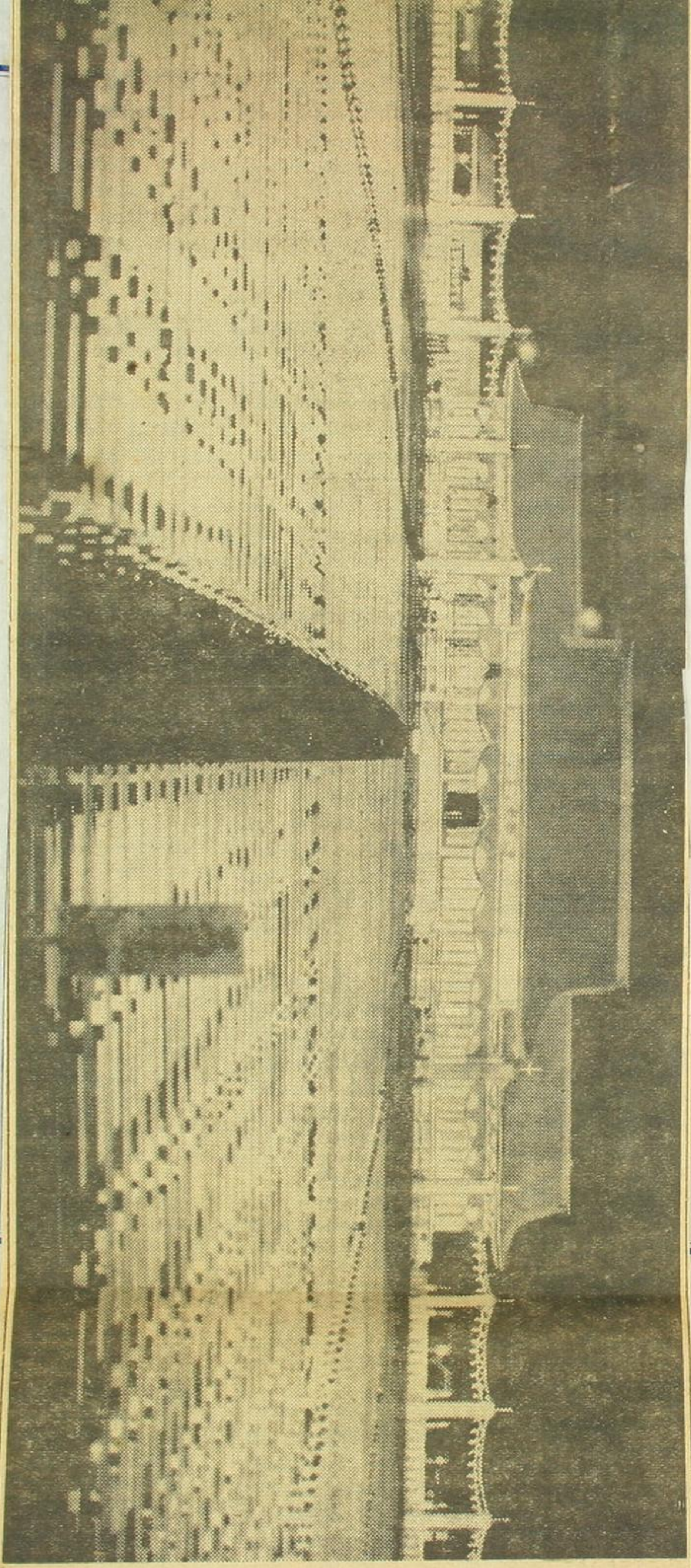
(一同最敬禮)

市島謙吉殿

謹啓來十一月二十九日帝國議會開設五十年
記念式典ヲ貴族院議場ニ於テ舉行致候ニ付
御參列被成下度御案内申上候 敬具
進而當日ハ 行幸仰出ノ御内意アル旨承居候
昭和十五年十一月十五日

衆議院議長 小山 松 壽
貴族院議長 伯爵 松平 賴 壽

照明輝く前夜の式場全景



盛儀を待つ式殿内部 中央に玉座・御座を拜す

エンバレン氏

十日(日)八日
の次男に生れ、パーミンガムの
メイソン大卒後、パーミン
ガム市議員を提出しに父の後
を継いで政界に登場、一九一五
年パーミンガム市長、翌年中央
政府に入つて大戦下の徴兵總
監となり戦後首相、閣相、蔵相
を歴任、一九三六年末エドワー
ド八世御即位の余瀆で翌年五月
ポールドウィン首相の辭任した
後を受けて首相となつた

「ベルリン本社特九日寺村特派
員」フランス戦線の動向以
來、英海軍には意見の不一致が
あり、総にアイアンサイド將軍の
在職、ゴート卿の引退となり、さ
らに空軍でも中略に關して劇
しい對立が起り、先に突如英空軍
總司令のニューオール將軍をニ
ーシャーランド總督への異動し等々
英軍部には政界による陸空軍の對
立が激化してゐるが最近更に無敵
を誇つた英海軍の要員でも戰
争指導方針について劇しい
非難 攻撃が過激、過激の
北海艦隊司令アープス提督の
威風となつて表面化した。極端に

作戦上に意見區々 首、海相の責任糾弾

英海軍、内部分裂暴露

英國下院の激論の討論となつて公
衆の前に呈されるにいたつた、討
論の主題はナルヴィーク撤退
當時一つの艦隊と他の艦隊との間
に共同動作が起る點に關してであ
る。艦隊母艦グロリアリヤス號を
ナルヴィーク沖で空しくドイツの
海上作戦の餌食にしてしまつたの
だといふのである、しかもこの艦
隊は英國の海上作戦に對して海軍
省が海軍士官連の批判を激した
方法についても非難の集中點が
行はれ、さらに一轉して當時海相
だつたチャーチル氏に對して劇しい
攻撃の鋒先を向けた、アレキサン



氏ンレバエチ

「八年ではあつたが、その後十
八年で首相となるナチス・ドイ
ツの擴張は抑せずしてチエンバ
レン氏を一方の花形にもり立て、彼
の忠誠心と熱誠と政策は英佛師
國民の多數に世界平和維持の中心
勢力として歓迎された
一九三八年秋、チエコスロヴァ
キヤをめぐるつて過激に變じた
歐洲情勢の急迫は、九月十五日
ベルヒスカーデンのヒットラ
ー山荘に、九月廿一日ゴードス
ベルグに、ヒットラー獨裁政と
チエンバレン英首相の歴史會

見を蒙らし、同廿九日ミュンヘ
ンにおけるヒットラー、ムッソ
リーニ、チエンバレン、达拉チ
エの獨逸英佛四巨頭會議にまで
展開しチエンバレン氏をその立
役者たらしめた、ミュンヘン會
議を認めて歸つたチエンバレン
氏はロンドン市民から凱歌隊軍
にも優る大歓迎を受けたが、立
ち遅れの軍備擴張が陸軍に
かぬ九月一日ドイツ軍のポーラ
ンド進駐を見るにいたり、英國
は行き掛り上對獨裁政を否み得ざ
る立場となつた
◇：九月二日朝十一時チエンバ
レン首相はついに對獨裁政政策を
一變してドイツに宣戦し、こゝに
現下の歐戰形勢は火蓋を切つた、
歐戰は急進派チャーチルの奇策を
促し、英國の敗色日増しに濃くな

るにつれチエンバレン氏の信望は
急激に下り坂をたどつて本年五
月十日首相の地位をチャーチル氏
に譲るにいたつた
爾來首相として閣内に留つたが
去る十月二日遂に閣相の職を辭
すると同時に長らく占めていた
保守黨の地位をも抛つた、
英國の勝敗を見届けずして敵を
撃つた彼の過激な魂には、果
どうかそれは悲劇的な彼の生涯
が後生に残す大きな謎となつた

ビットマン氏

米上院外交 委員長

「リノネウアタ州」本社特電十
日(日)對日強硬論者である米上院

外交委員長ビットマン氏は十日心
臟病で急逝した、享年六十九
ビットマン氏は米大統領選挙日
の前日四日に心臓病のためワシ
ントン(ネウアタ州)の郡立病院に
入院し自身の再選とルーズウェ
ルト大統領の補選を八日病床で
聞き取つたが、上院外交委員長
の職務と選挙戦の疲勞が急逝の
原因となつたものらしい
全米反日論の旗頭
◇：ビットマン氏は一八七二年
九月ミシシッピ州ワイックスバ
ーグ市の農家に生れ、初年で大
學を卒業、米國上院社會の典型
的有閑青年として社會に出た、
一時はシャトルで弁護士を開業
したが、性來の冒險好きから折
柄はつてきたアラスカの砂金
探りに飛び出し、ドーンを旗



氏ンマトツビ

出しに採金地を駆け廻つた畢
句ネウアタ山中のトノペーで幸
運にも銀を採り、とんとく
拍子で十年後の一九一二年十一
月には民主黨から選出されて上
院議員となつた
◇：議會におけるビットマンの
立場は自己の地盤であるネウア
タ州の銀を調達すること以外にな
く銀貨の正貨併用、銀貨上げ債
の引上げ等の銀問題を振りま
はし銀のためならどんな問題
にでも妥協し銀問題の代價と
してルーズウェルト大統領の
隨便に従ひ一九三三年三月上

院外交委員長にきまつてか
ら彼は有名な反日家となり、日
本の陸軍における立派なところ
ら田解しその暴行は米國新聞
にも非難を買つてゐたが、元を
たたせば銀の國土海軍あり、
支那を援助することによつて支
那の銀購買力を増進させよう
としたのであつた、ところが結果
は銀の對米流出といふ皮肉の現
象を呈してかれの目標はずつた
り外れ、その過激が日本に對
する暴言となつた、また日米通
商條約廢棄を叫び出したのも彼で
あつた、去る五月の選挙でルー
ズウェルト氏が再選、ビット
マン氏自身も議院を離れて、い
よゝ、議會の反日強硬政策を米
國民に押しつける立場となつた
が、その急死によつて米國政界
はこの一種過激な人物を失ふ
こととなつた

陸海空の 英首

【ロンドン十日(日)同電】チャーチ
ル英首相は九日ロンドン市廳にお
いて演説を行ひ、英軍工業の立
足を認めると共に急速なる陸海
空軍の増強を要請した、要旨次の
通り
英軍が現在攻勢に出得ない理
由は英國の軍需生産力が未だそ

「ベルリン本社特九日寺村特派
員」フランス戦線の動向以
來、英海軍には意見の不一致が
あり、総にアイアンサイド將軍の
在職、ゴート卿の引退となり、さ
らに空軍でも中略に關して劇
しい對立が起り、先に突如英空軍
總司令のニューオール將軍をニ
ーシャーランド總督への異動し等々
英軍部には政界による陸空軍の對
立が激化してゐるが最近更に無敵
を誇つた英海軍の要員でも戰
争指導方針について劇しい
非難 攻撃が過激、過激の
北海艦隊司令アープス提督の
威風となつて表面化した。極端に

「八年ではあつたが、その後十
八年で首相となるナチス・ドイ
ツの擴張は抑せずしてチエンバ
レン氏を一方の花形にもり立て、彼
の忠誠心と熱誠と政策は英佛師
國民の多數に世界平和維持の中心
勢力として歓迎された
一九三八年秋、チエコスロヴァ
キヤをめぐるつて過激に變じた
歐洲情勢の急迫は、九月十五日
ベルヒスカーデンのヒットラ
ー山荘に、九月廿一日ゴードス
ベルグに、ヒットラー獨裁政と
チエンバレン英首相の歴史會

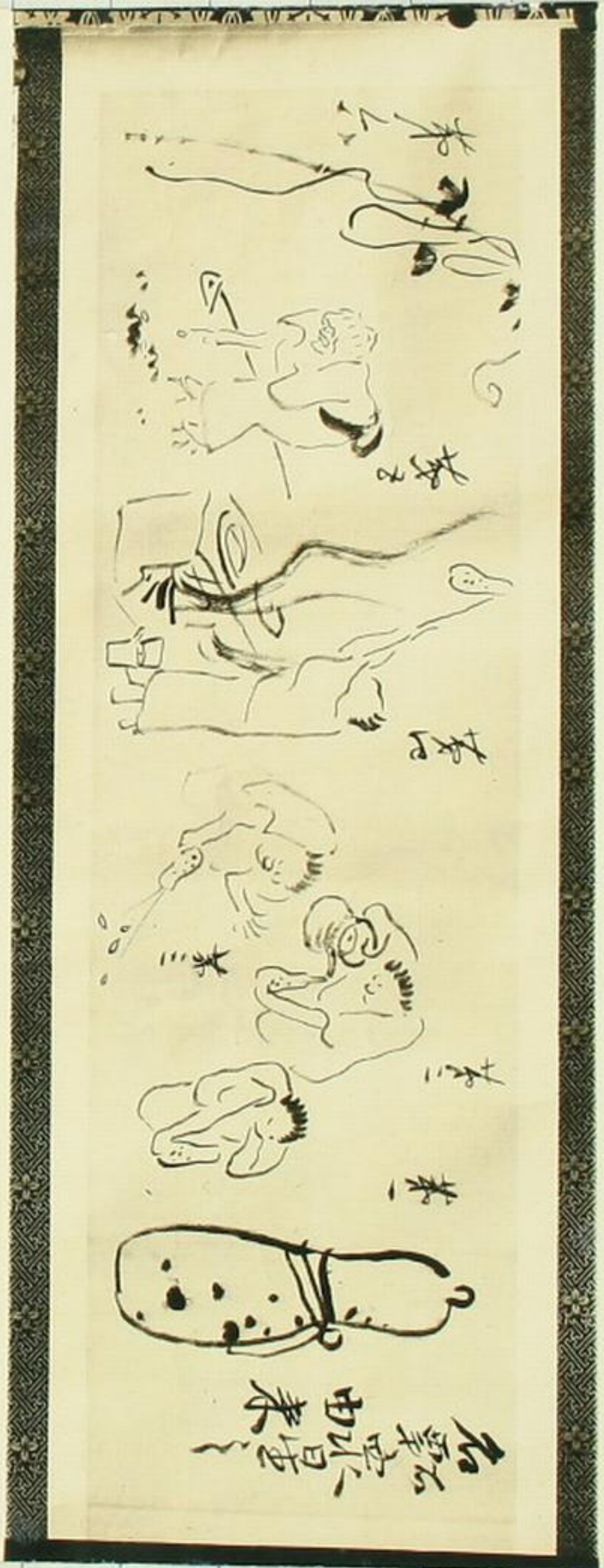
見を蒙らし、同廿九日ミュンヘ
ンにおけるヒットラー、ムッソ
リーニ、チエンバレン、达拉チ
エの獨逸英佛四巨頭會議にまで
展開しチエンバレン氏をその立
役者たらしめた、ミュンヘン會
議を認めて歸つたチエンバレン
氏はロンドン市民から凱歌隊軍
にも優る大歓迎を受けたが、立
ち遅れの軍備擴張が陸軍に
かぬ九月一日ドイツ軍のポーラ
ンド進駐を見るにいたり、英國
は行き掛り上對獨裁政を否み得ざ
る立場となつた
◇：九月二日朝十一時チエンバ
レン首相はついに對獨裁政政策を
一變してドイツに宣戦し、こゝに
現下の歐戰形勢は火蓋を切つた、
歐戰は急進派チャーチルの奇策を
促し、英國の敗色日増しに濃くな

るにつれチエンバレン氏の信望は
急激に下り坂をたどつて本年五
月十日首相の地位をチャーチル氏
に譲るにいたつた
爾來首相として閣内に留つたが
去る十月二日遂に閣相の職を辭
すると同時に長らく占めていた
保守黨の地位をも抛つた、
英國の勝敗を見届けずして敵を
撃つた彼の過激な魂には、果
どうかそれは悲劇的な彼の生涯
が後生に残す大きな謎となつた

ビットマン氏は十日心
臟病で急逝した、享年六十九
ビットマン氏は米大統領選挙日
の前日四日に心臓病のためワシ
ントン(ネウアタ州)の郡立病院に
入院し自身の再選とルーズウェ
ルト大統領の補選を八日病床で
聞き取つたが、上院外交委員長
の職務と選挙戦の疲勞が急逝の
原因となつたものらしい
全米反日論の旗頭
◇：ビットマン氏は一八七二年
九月ミシシッピ州ワイックスバ
ーグ市の農家に生れ、初年で大
學を卒業、米國上院社會の典型
的有閑青年として社會に出た、
一時はシャトルで弁護士を開業
したが、性來の冒險好きから折
柄はつてきたアラスカの砂金
探りに飛び出し、ドーンを旗

出しに採金地を駆け廻つた畢
句ネウアタ山中のトノペーで幸
運にも銀を採り、とんとく
拍子で十年後の一九一二年十一
月には民主黨から選出されて上
院議員となつた
◇：議會におけるビットマンの
立場は自己の地盤であるネウア
タ州の銀を調達すること以外にな
く銀貨の正貨併用、銀貨上げ債
の引上げ等の銀問題を振りま
はし銀のためならどんな問題
にでも妥協し銀問題の代價と
してルーズウェルト大統領の
隨便に従ひ一九三三年三月上

院外交委員長にきまつてか
ら彼は有名な反日家となり、日
本の陸軍における立派なところ
ら田解しその暴行は米國新聞
にも非難を買つてゐたが、元を
たたせば銀の國土海軍あり、
支那を援助することによつて支
那の銀購買力を増進させよう
としたのであつた、ところが結果
は銀の對米流出といふ皮肉の現
象を呈してかれの目標はずつた
り外れ、その過激が日本に對
する暴言となつた、また日米通
商條約廢棄を叫び出したのも彼で
あつた、去る五月の選挙でルー
ズウェルト氏が再選、ビット
マン氏自身も議院を離れて、い
よゝ、議會の反日強硬政策を米
國民に押しつける立場となつた
が、その急死によつて米國政界
はこの一種過激な人物を失ふ
こととなつた



茶一

○閑に棄一茶の句と抄録一〇句二三百五十一首
 二及ぶ冊子と署し一茶抄とす。この巻は茶の
 一茶の句は皆天正の御漫一と又の言えとす。所を露骨に
 ありし自家の食境をよふを懐く。而もよあめり格
 感も屈せぬ。あめりの御中や大名と書し一茶も隠
 らず。露骨を現す。よあめり。動生物。その情もあ
 く。句々皆彼等と。我々愛するの情をえり。一茶は結
 母のあめり長く苦し。又、少男一は経歴がある。む。此並物
 の情をゆえ。あめり。造る巧め。よあめり。偏し。情も
 二今。あめり。句と心つて。あめり。よあめり。並流とおの。あめり。其の。其
 を異にす。其の。年立う。よあめり。飾る。修好と。あめり。其
 生い。よあめり。所。あめり。其の。特色。あめり。余。句。よあめり。其の。其

と北人の句を愛するは三十年前随時録の
よめあしを刊のしる句集に概ね注し
所おぼしめしとるは随時書き留めし
年録也

○十月三十日早稲田大を以て記念集を発刊するに
は随時書と改題したるなり

和昭 (二)

創立六十周年記念誌

春城書

昭和六十一年

○日頃の無野を破、開す業ハ、優人與地、後を母子
 とせり、其の縁ハ、今ハ、待彩を断せ、許らむと業おまじ
 と、其の字ハ、一寸前を、大と、何と、行そ、心と、性、概也
 又、其ハ、無聊を、き、こと、業、持、つ、事、の、也、こ、し、を、解、か、ん、為
 也、斯く、こ、此、高、向、之、解、了、よ、成、一、冊、修、り、の、乃、い、は、る、公、頃、者
 亦、是、堂、の、也、冊、と、性、以、得、之、格、言、く、の、教、を、汝、と、相、し、二、〇、句、を
 一、冊、成、り、起、し、と、陳、言、お、と、ま、り、概、は、改、者、も、爲、す、は、
 之、在、り、の、故、も、く、更、く、こ、一、冊、を、性、以、ま、く、也、の、概、題、と
 難、解、何、と、問、り、之、を、故、こ、一、教、の、汝、を、偏、也、は、る、も、お、せ、
 ろ、感、し、深、ま、と、お、し、時、の、材、料、と、云、と、す、く、も、を、や、れ、
 古、き、教、と、ん、と、こ、に、在、り、道の、其、火、の、如、き、よ、る、ん、と、ん、と、
 こ、と、難、解、何、と、云、つ、け、り、
 十月廿九日

〇羽衣問わの、其、澄、と、云、く

未辟去河童、既行愛河、輕、一重、又、二輕
 瓶也、其、送、也、
 井田の、つ、り、ち、く

出、身、明、教、入、無、碍、惟、有、盈、瓢、酒、似、矣、應、止、地
 行、隨、所、解、王、辰、不、亦、半、文、也

五、六、の、地、味、と、い、く、と、也、
 交、り、堂、也、念、佛、宗、宗、を、持、け、り、行、く、其、故、未、了、す、暗、不、去
 彼、等、の、運、動、の、未、了、也、此、の、あ、る、か、み、祝、の、句、ん
 一、割、り、の、宗、の、心、を、と、し、き、半
 と、あ、り

子子山人の句に、秋表古師に銘する碑出外とあり

秋表 秋の味あり

とてふ句の味あり

一出鶏群経蕪霜 華軒何仁整衣裳 孤山不必

歎孤獨 林叟是節梅是娘

原識花玉眼太高 欲題新句首重搔 曾陪與慶

池東宴 親見謫僊揮解毫

應舉 貓

籬根草暖當觀罷 吾思花邊逐脈穩初 長為却弱

護田鼠 野猿不顧歎魚魚

東京

一説
秋

竹

山月溪風常問安 虚心寧願近人間 七賢六逸

為何事 撓撓斯君不得寐

不聞啼血促回輪 歌吟海邊經幾春 忽向畫中

逢蜀魄 始知身是未歸人

幽人晨起數盆荷 昨日三花今五花 追憶東台

山下曉 紅衣滿地簇晴霞 山陽外史

東京原福用紙 A

10×20

山陽若木（？）の書屏外一六幅前の題連を二九二とあるはか
また六幅を（？）おろすは題連と云ふ皆遺稿に遺すは詩二つ
きいりに見の稿を留む

○大田道灌の家譜を指す事、題連を引ふより見れば
譜のあ府公の命を伝ふ秘稿海泊の編し且書す所を
祖先くそ記しおまきか謀略の秘書なり書ありてある
道灌の家を讀むと、特々細かに秘の秘を記してある
巻首に大田家譜の中なる大書しとある、一行の
改物に、道灌とあるは人の傳を十就むまきとある
ひき、此巻は古き足許しと云流に全編を以つてまは
ふ、別人の書を讀むに宜か、或んと并し宜なる程の秘あり
かゝるてある。

○と人の心とあるは、まに個性あり
し、あつて書ありて、此のつと、秘文と云ふと
志皇太后の御書なり

鏡にありて人のまに、ちて、やかに見あり

み書ありと所也

一くたり書たり書ありて、人の

心ありけり 秘文と云ふ

書ありに書くべからず

○書法と形容し、右の向、左の向、あま書法を傳たり

潮野只園蘭千鶴、執捲銀山若馬来

霜爪歴溪疑無水、架溪一信鍾通寺、晨霜漸融所於
溪、秋魚散野錦、重哀、鴻是朝公道、此更梅句
高所の句七亦言々々々

若株楓美豊秋、霞、下有溪流一道、鍾、最是初陽射林
際、紅雪、竹裏、刺多金、此

○廿五日の句、可成の如く、多んが秋に、言と、只、め、を、同、言、又、句、云
秋、ま、ぬ、と、合、然、さ、せ、る、建、一、言、

○湖、東、果、の、十、二、橋、を、詠、し、し、句、云、め、を、感、ず、る、よ、う、し、此、頃、屋、上
望、舟、の、六、五、十、首、を、載、き、ま、え、は、切、り、抜、き、此、等、の、終、り、に、附、し
此、が、

い、く、つ、あ、が、無、り、く、り、り、傍、を、来、る、橋、の、数、を、は、か、を、さ、え、り、し、
大、新、根、に、い、く、く、る、お、路、ま、の、女、く、り、り、残、り、の、橋、二、つ、え、也、し

此二句の句風

の、別、よ、つ、つ、の、と、ん、の、姿、を、和、歌、に、詠、ん、と、よ、ふ、方、の、可、く、あ、る、の、は、此、が

中、間、に、う、り、解、け、し、し、礼、答、の、校、目、の、二、つ、え、り、

○廿四日、成、文、を、方、舟、に、ま、り、書、お、も、は、合、め、又、と、出、行、ん、と、し、

余、り、小、舟、と、詠、め、乃、と、言、し、と、無、り、高、く、余、書、意、を、と、ま、り、ん、と、し、と、言、
し、此、頃、根、を、載、き、ま、え、は、切、り、抜、き、此、等、の、終、り、に、附、し、其、の、言、を、
任、し、と、言、し、し、し、主、本、書、意、(此、め、に、加、納、夏、原、の、御、意、を、月、の、雪、鶴、
の、倒、意、を、載、き、ま、え、近、世、某、名、師、家、の、寸、法、也、廿、一、日、也、)三、百、句、云、云、

ふ、お、も、も、存、意、を、述、ぶ、の、余、り、此、等、の、言、を、前、書、湖、の、小、舟、に、下、本、二、百
句、上、風、印、の、一、個、と、詠、後、師、家、の、同、書、若、干、と、言、う、の、合、め、

六五回まで打ち去る。今更ふに既後同縁の威名王(因体骨臺)の墓記之原本に冊明の私の考証ある一巻と並ぶ。王(天)を以て述べ、官位(多)最古の人多、此の骨臺相(表)塗金(と)元(明)年(同)大(和)の同日(日)回(敵)と(堀)出(と)入(天王寺)に(た)り(巻)せ(と)り(回)上(巻)也

書(高)幅(紙)紙(院)と(言)印(と)其(許)に(現)さ(れ)る(も)残(存)の(よ)り(五)十(紙)計(村山)祐(海)に(托)す(北)人(の)未(定)也(約)二(千)四(百)十(紙)計(一)割(引)十(八)百(四)也

又(田)出(若)干(と)出(し)て(之)の(中)に(三)百(の)價(百)九(十)百(十)紙(計)價(未)定(也)也(此)係(る)十(二)百(十)

此(考)と(二)文(印)と(予)が(卷)に(北)人(と)一(室)又(價)の(餘)を(と)る(に)生(計)考(ふ)人(と)り(也)

○早(大)と(二)部(の)新(刊)書(来)と(一)は(英)文(大)隈(及)り(係)す(信)の(英)

英(大)隈(及)り(係)す(信)の(英)

之(の)係(り)外(人)に(讀)ま(と)り(よ)り(初)め(と)出(来)れ(る)ハ(伊)知(地)早(大)致(授)の(力)也(外)國(の)字(打)係(り)比(し)て(文)宗(七)載(と)也(も)ま(り)こ(と)と(表)す(他)の(一)つ(古)回(縁)と(係)り(古)回(字)の(片)影(と)と(述)ぶ(よ)り(半)峰(昔)流(し)の(姉)妹(と)命(を)日(し)若(者)流(の)と(故)の(事)と(皮)の(地)の(流)の(料)料(ハ)多(く)金(が)流(流)と(掃)り(本)城(法)と(あ)る(の)に(頼)り(よ)り(花)の(日)係(り)を(示)す(は)し(金)を(流)し(ま)つ(れ)初(稿)子(ハ)全(上)の(意)に(満)た(す)記(す)が(頗)る(多)く(古)く(昔(を)と)吐(い)て(刑)に(せ)は(れ)板(又)も(つ)ら(と)り(と)り(整)々(林)ハ(十)八(日)ハ(九)ハ(初)め(て)可(き)う(よ)く(ま)つ(れ)の(を)ま(り)也

○自(今)ハ(中)外(行)不(自)由(の)身(と)り(同)も(彼)探(今)の(法)裁(を)定)め(る)相(中)骨(を)打(つ)也(此)の(問)題(十)五(年)以(前)か(ら)自(今)の(換)中(心)

の御由申す冷の度後友人の遺物と冷えし事さうあ無くは人の思
ひつきで作冷の句稿を一行切つてせんとい稿に仕立て、傷みぬ
ひし作冷の遺印十題を歌して後し、えとて入る。時つれは
人の遺物しとおもしうも、物向と思ふれ、自分のさめく来た句に
云く

四歌しつて秋の物ととくことゝ
冷

句とまをけらるる村をさうとらるるか、
川冷の句で今このよふ一二を好す

蝶はらへ天下の事をほくこと

白うをやるへくさるるおらるる

仰向して冷らるるとそおちのその言

口舌部で、外回と難事あることと萬民一体とるも奉仕するが常で
りは和事の七日露教多むとさうい、あつた、若廿一系の天子を親く回
吳民俗を交へる國は柱の當分の事とい、あるが、今う方の日法す
ハ院に三四年と好む、丁もさうい、終極に別るると、其間に廿歳の政
か差して、橋伊が英件と難事を始め、わが伊國ノルウ井、若南
自身義等もが、橋、屋敷も、政、准也、注、邦、橋、格、力、下、在、り
英、回、七、橋、と、親、つ、て、又、橋、に、証、時、さん、と、て、是、は、英、回、の、米、國、の、支、援、と
清、と、今、り、是、死、の、奈、奈、淵、を、清、け、英、回、敗、亡、の、曉、ハ、橋、伊、七、米、國、を、敵、と
て、敵、に、あ、ら、う、と、い、ふ、こと、さ、う、い、ふ、我、邦、と、支、那、と、の、關、係、七、英、件、が、支、那、と
援、助、する、と、い、ふ、三、年、を、要、し、可、戰、百、勝、と、い、ふ、ま、い、い、守、り、ぬ、め、ぬ、譯、ひ、あ、る
か、く、英、命、を、敵、と、せ、し、め、片、付、り、ぬ、と、い、ふ、佛、ハ、橋、の、為、ま、亡、び、に
が、英、又、敵、と、い、ふ、相、と、佐、女、安、が、起、り、橋、伊、三、回、の、白、紙、が、佐、女、

160



鳩尾堂主人張玉如鳳鳴翠嶺先生雙瑞日又聯歲一
 孫形似者名曰鳳卯余為姓曰鳳鳳瑞鸞鳥也推曰鳳
 雌曰鳳余也併有鸞雛二卵均為奇瑞也若夫靈驗之
 驗人把柄相封固然自得自余亦不覺窺知也
 丙午八月 賴汝題正西作誌

雙鳳鳴翠

This is a blank ledger page from an account book. It features a blue rectangular border enclosing the main writing area. The page is divided into 15 vertical columns of varying widths, typical for recording financial transactions. The columns are arranged from left to right, with the narrowest columns on the far left and the widest in the center. There are small blue triangular tabs on the left edge of the page, likely for use with a binder or folder.

This is a blank ledger page, identical in layout to the left page. It has a blue border and 15 vertical columns. A small, vertical label is printed in the left margin, between the first and second columns, containing the Chinese characters "賬簿" (Account Book). There are also small blue triangular tabs on the right edge of the page.

A table with 15 vertical columns, enclosed in a blue border. The columns are empty.

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

A table with 15 vertical columns, enclosed in a blue border. The columns are empty.

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

東洋

頼鴨庄墨川納涼七絶
萬點舟燈照肉絲 曾無涼月到漣漪 可憐
蒲洒在中將 靜聽沙禽彼一時 鴨庄
(無印)

運舟と浮ぶものも鴨庄と山陽の風を外しと一投もあ
まもせりなすのや 以自集にあらまも三首他はら

題雲龍圖

文化九年三月

曾遇雷驚電擊時 嶄然頭角忽雄飛 卻從雲表

閑回頭 幾個同儕點額歸

醉臉依波廣裡青 釵橫鬢側倍娉婷 大真春酌

蓬萊酒 一睡秋風吟未醒

孤松相伴歲身長 獨傍東籬凝艷粧 吾輩歸來

何太勉 輕霜淡日又重陽

畫鷹

文化九年三月

殊空萬里自雄飛 食有霜禽樓有枝 何事吳門

課一飽 碧線三尺被人羈

客棹盤礴寄情長 海國秋暄葉未黃 背著月安

千對錦 翻將尺幅寫秋霜

野馬圖

文化十年三月

曾期蹄鐵躡居延 野性終難任絡繹 今日寧思

槽豆味 春波水暖草如煙 山湯卜史

昭和十二年十月十日録

○威那王碑銘ハ天平時代のも趣後之因縁ある最古の金石である。
其人の當り細作の起任し人官人であるが皇族の小納言の地位に在り。
相違の経歴もあるが大日本史の進しをみると天明年間大和國の田
畝の間から掘り出されしものであるが體の如き
田休の骨壹ひ、直徑八九寸程の銅の製を以、細く其の経歴が刻せ

洛北修學院村の詩仙堂 學者で、忠節を以て國難が石川丈山隱栖の地であるに殉じた人である。黄道



京の詩仙堂 と養石山莊

辰巳赤城

を題して掲げてあるから その書齋は十朋軒、九申この名がある。堂主に六開の二室に分れ、彼は其々山人の別號あるのも亦處に古賢哲五十六家の畫像を掲げ、隸書で讀を書き、日夕羣賢に思ひを寄

せたと言ふ。この題意は黄樞といふ人によつて版に刻され、墨帖になつて世に行はれた。この詩仙堂と、養石山莊、どうも甚だよく似てゐる。それ許りでなく、丈山の隸書は石齋のそれと瓜二つだ。一方を想へば他方の聯想されるのも無理ない。そこで思ふのだが、丈山は石齋に私淑し彼に倣ふたものではあるまいか。丈山隱栖の頃は恰かも明の滅亡の時に當り、明末殉難の烈士として石齋の評判は高く、我が識者の間にもひどく崇敬と同情を受けたものである。三十六詩仙の数は日本の卅六歌仙によるものであるが、詩仙としたのは石齋の影響からではなからうか。若干の出入はあるがその三十六家は殆ど五十六家に包含されるのも考へてよい。丈山の風格も石齋に似てゐる所が多分にあるやうだ。とすると丈山の隸書の系統もわかる譯である。丈山は、石齋が國難に殉じて刑せられてから後十數年存世し、寛文十二年九十歳で歿した。

言 頭

蟲のいゝ話ではあるが江戸風俗全般に互り何とか簡便に編纂された圖説のやうのものが欲しいものと願つてゐる。餘程以前のことであつたが江戸時代の女の鬚だけでも大體を知つておきたいと思つて、手元にあるだけの材料でやつて見たが慶長から明治までに普通の鬚だけでさつと百三十餘種島田鬚だけで、やつし、メ付、元祿、とり上、後家、投、小まん、腰をり、つぶし、吹よせ、玉川取揚、のんこ等十七種で半數以上は想像でこれだらうとして置いたに過ぎないが、變形新種を數へたら夥しい種類となるであらう。乏しい材料の中ですら髮形にこれだけの種類と變遷があるのを知つて驚いたが、タハシ、蜻の足、手糞、テンホウサン、ウンデレガン、なんといふのがあつたりして手に餘り降参して止めて仕舞つたが、單なる髮形に於てすら此如くである。風俗全般に互つては容易ならざるは推して知るべきである。江戸の文化は實力を得た町人の生活の中から生れ出て發達を遂げたもので、文學美術工藝等それが我國固有のものであるのを誇りとする。風俗習慣にしても諸侯の參觀交替や諸方から集まる人々によつて各地の風習が互に相通じて平均された一つの型が出来たといふべきものであるから代表的なものといへる。江戸を知れば端的に日本の姿を知るともいへるわけだ。此意味で江戸讀本は貴重な存在である。特に私達には裏からすぐに奥を覗かせて貰へるやうな氣がして有難いのである。

大 野 静 方

質 疑 應 答

○投書歡迎○誌上匿名隨筆
○但し住所姓名明記に限る

【問】中野の犬小屋の規模を知りたいのですが、何書を見れば宜しいでせうか。なほ中野以外に東大久保にも犬小屋があつたと聞いて居りますが事實でせ

うか。(中野愛犬)
【答】中野犬小屋のあつた場所は今桃園町あたりで、中野停車場を中心として約十六萬坪あたりあつたと申します。元祿八年十月十四日著工、翌九年二月十四日竣工で、寶永六年に取拂ひとなりました。園内の造替規模につきましては、當時の勘定帳が残つてゐるといふことですが其の所在は存じません。尤も竹橋

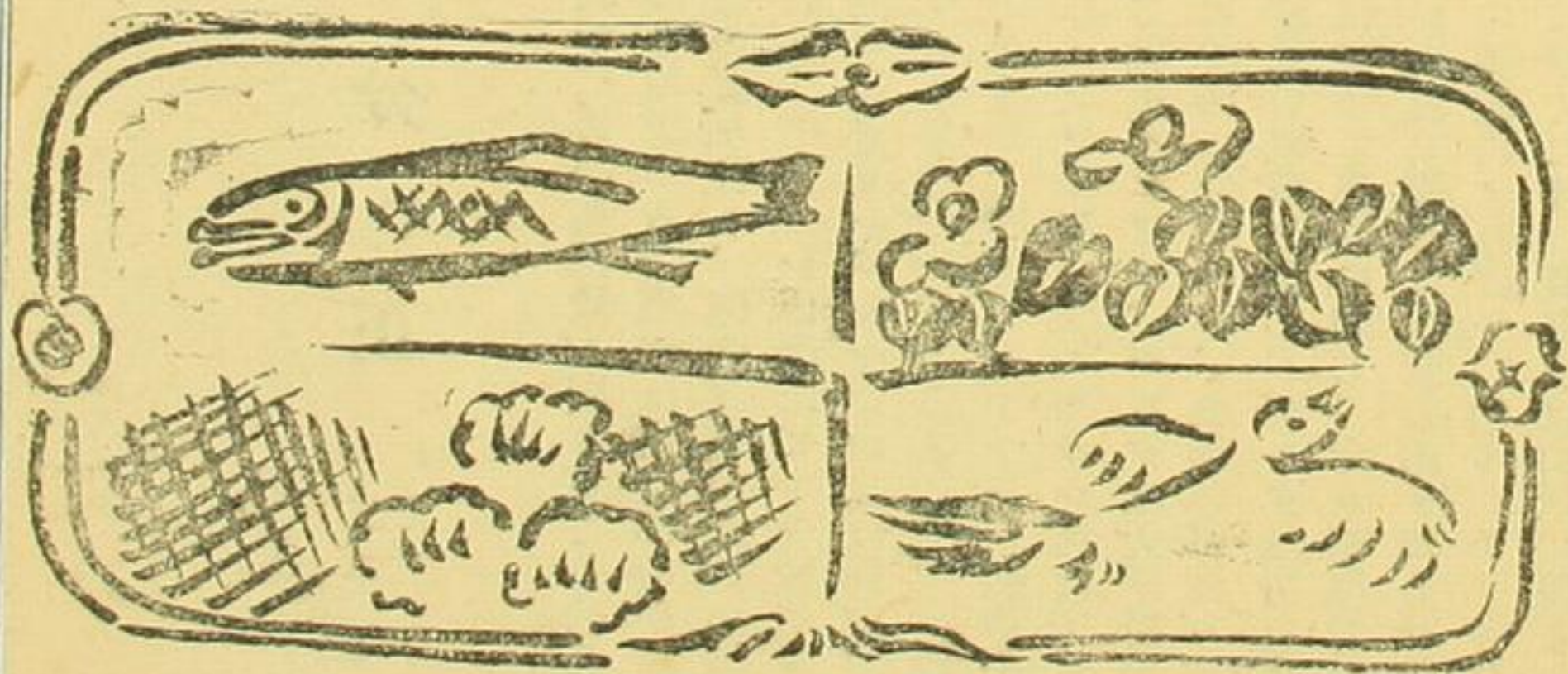
餘筆(國書刊行會本)に割合に詳細な記事がありますから御覽下さい。なほ東大久保にも犬小屋のあつた事は事實です。則ち今の牛込區餘丁町の内の西方部分で、これは元祿七年頃出来、早く取拂つて元祿十年末には凡て武家屋敷になつてしまひました。右のほか、今の世田谷區喜多見町の内にも幕府の犬小屋のあつたことが竹橋餘筆別集に見

えませんが、之は元祿五年頃設置がと云ひ、取拂ひ年月は不明です。(W)
根津や谷中で
『江戸讀本』鈴木仙藏著談中の「根津や谷中でお茶ひくよりも國で田の草取るがよい」の俗語は、天保頃に流行せるものにて「國で」は「田舎で」の誤りでありませう。(梅本高節)

潮來十二橋

尾上柴舟

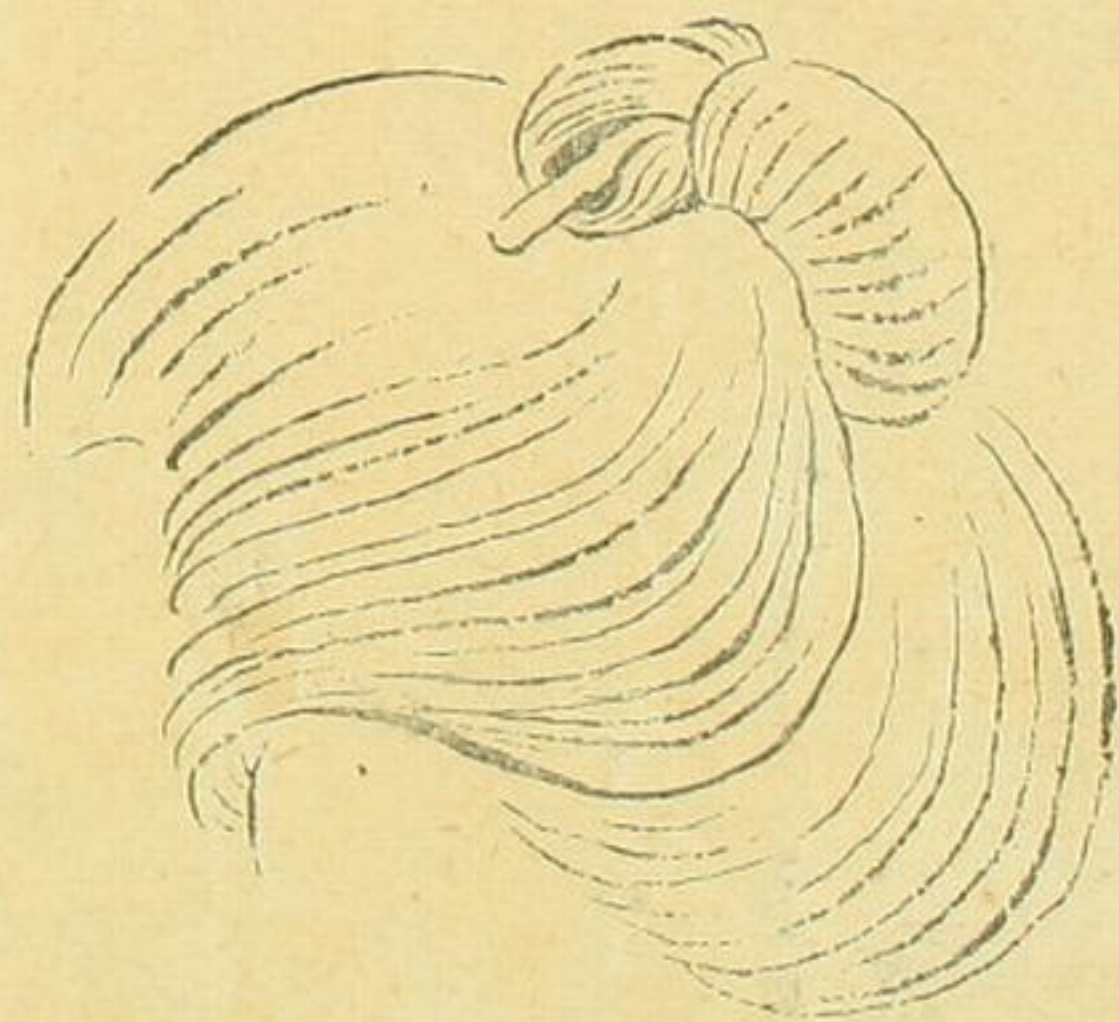
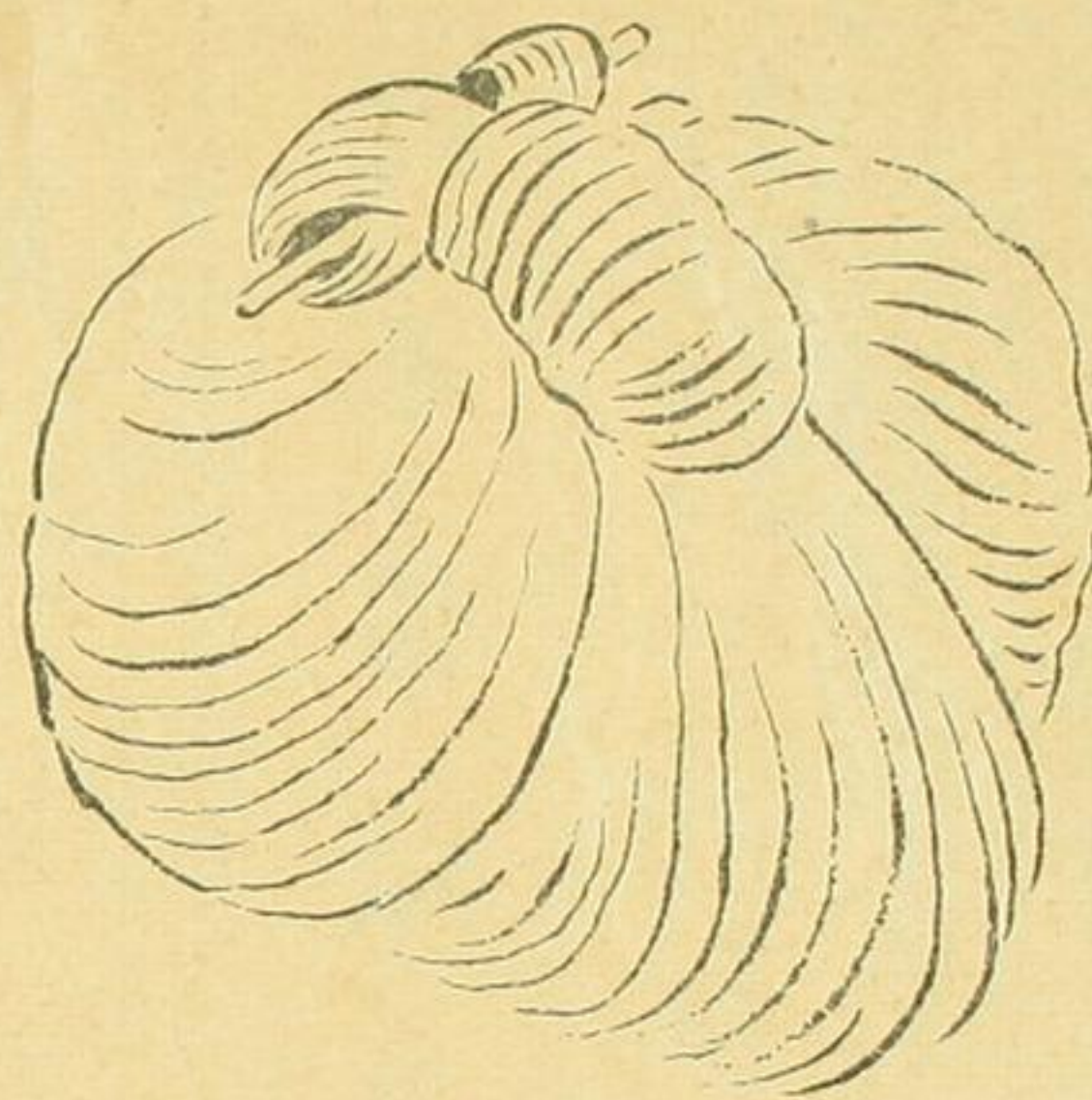
物買に行くといふなり古舟に竹の穂さす前垂をとめ
 水漬ける柳の小枝浮草のからめるままに重く臍かふ
 ひるの風渡る水路波動き落高萱根しろくゆらぐ
 浅く澄む水路の水に里の女がおとす鍋墨きよく擴ぐる
 わが舟を子ら見おろして何かいふ片欄干の高橋の上に
 横堀の細き水より来る風舟にこまごま波吹き寄する
 舟ゆけば亂れうち散る魚の影岸の葦間にくぐりて早き
 いくつわが舟はくぐりし續き来る橋の数をばふと忘れたる
 かるらかに通る女の下駄ひびく舟またくぐる古橋の上を
 大利根にひらくる水路未明みくぐり残りの橋二つ見ゆ



江戸圖彙

おしやこ

武内桂舟翁に、おしやこは意氣なデンボウな髪で、達磨返しなどに結ふ人たちの好みなり、明治廿年頃までありました、オイラン上りの權妻などが、すきやを素肌へ直に著て、八反と黒實に描き出されたり、翁の布くもせぬ流儀からは、さもあるべき事ながら、飛んだ御無心を探し出し、態々其髪を令室に結はせて、著室を煩はせたること、恐縮千萬なり、翁は又云ふ、この髪は明治の初年に遣手が結び出したのなれば、江戸からの持越しではなしと爰に掲げしは翁の令室の結へるを、描寫して與へられたおしやこの圖なり。



東京日日新聞

時報新報

相互の指導地位 世界新秩序建汎

ベルリン

學國待望の外交轉換は廿七日の日獨伊三國同盟に一新秩序建設のための戦争を遂行すべし承認し相携へて世界新秩序建設と世界平和の首都ベルリンの總統官邸では午後一時十五分使、ソッペンントロップ獨外相、チアノ伊外相つて國際電話を通じ盟邦の三外相は電波を通出した、同盟結成を機とし帝國が當面する所なる詔書を發表せられた、これに同席する所

畏し大詔

大義ヲ八紘ニ宣揚シ坤輿ヲ一字ヲ夙夜奮々措カザル所ナリ而シテ今ノ蒙ルベキ禍患亦將ニ測ルベカラク復ノ一日モ速ナランコトニ軫念意圖ヲ同シクスル獨伊兩國トノ提ノ成立ヲ見タルハ朕ノ深ク擇ブ所惟フニ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得ハ曠古ノ大業ニシテ前途甚ダ遼遠謀リ遠ク慮リ協心戮力非常ノ時局御名 御璽

昭和十五年九月二十七日

條約要旨

外務省發表表 (廿七日午後九時十五分日獨伊三國同盟、廿七日ベルリンにおいて左記條約の三國條約締結せられたり)
日本、ドイツ及びイタリア三國條約要旨
大日本帝國政府、ドイツ帝國政府及イタリア帝國政府は方針をして

日獨伊三國同盟成立

昭和十五年九月二十七日 東京日日新聞

東京日日新聞、日獨伊三國同盟の成立を報じ、世界新秩序の建設に資するものと見做す。此の同盟は、東洋の平和と繁栄を保障し、世界の平和と繁栄に資するものと見做す。此の同盟は、東洋の平和と繁栄を保障し、世界の平和と繁栄に資するものと見做す。



（左から右まで）墨、意、日三國の領袖

東京日日新聞、日獨伊三國同盟の成立を報じ、世界新秩序の建設に資するものと見做す。此の同盟は、東洋の平和と繁栄を保障し、世界の平和と繁栄に資するものと見做す。此の同盟は、東洋の平和と繁栄を保障し、世界の平和と繁栄に資するものと見做す。

山本忠興の遺稿を以て... 忠興の遺稿を以て... 忠興の遺稿を以て...



忠興の遺稿を以て... 忠興の遺稿を以て... 忠興の遺稿を以て...

治橋の橋い事は本居宣長の林崎とみ... 林崎文庫と村井古巖... 林崎文庫と村井古巖...

明年中、は浅野長祚の書で北庭に... 浅野長祚の書で北庭に... 浅野長祚の書で北庭に...

一年の軍神祭に御閱兵... 観兵式の起り... 観兵式の起り...

史と意義... 観兵式の起り... 観兵式の起り...

九月廿二日... 諸兵指揮官... 諸兵指揮官...

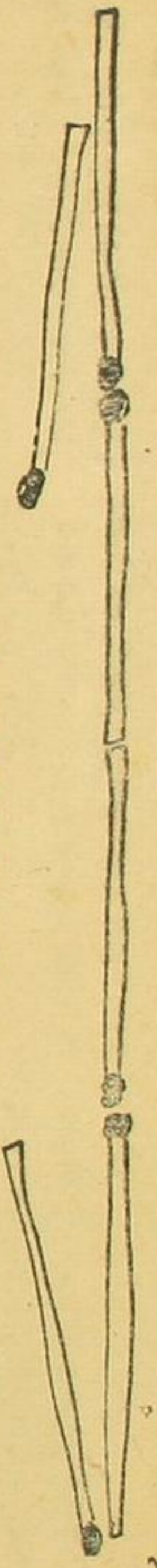
軍式を行はせられた... 軍式を行はせられた... 軍式を行はせられた...

軍式に出でさせ給うた外なら... 軍式に出でさせ給うた外なら... 軍式に出でさせ給うた外なら...

ナポレオン自殺顛末記

改訂工月部

マニユエル・コムロフ



獨裁者が自らその生命を断つといふ事は餘程困難な事であるらしい。

彼は生命を愛する。彼は榮光に憧れ、權勢と威力に無限の執着を持つてゐる。獨裁者であるからと云つて、常に肉體的な勇氣を強く持ち続けるとは云ひ切れない。むしろ獨裁者といふものは、自己欺瞞といふ點に於て、異常な力量を持つてゐると解した方が妥當であらう。彼は虚偽を巧みに糊合はせて、それを強烈な一團の焰の象徴とする天才である。而も一朝失意のどん底に落ち込んだ場合でも、

卒然として己れの遂行すべき重大な使命を發見する。再び勇氣が蘇つて来るのである。

若し獨逸が歐洲制覇に破れたならばヒットラー總統は果して自殺するであらうか。彼は一九二三年、ミュンヘンのクーデターに若し破れたなら自らの生命を断つであらう事を誓つた。而もクーデターは失敗したにも拘らず、彼は卒然として彼に非れば何人も遂行する事の出来ない重大な使命を發見したのである。

敗北を甘受するよりは寧ろ自らの生命を断

つに如かないと誓つた獨裁者は他にもある。而も歴史は未だ曾つて獨裁者の自殺を記録した例を持たない。

自我は如何に惨めな敗北よりも強いのである。曠世の偉傑ナポレオンでさへも、常に毒藥の袋を肌身離さず用意してゐながら、遂に自らの生命を断つ事をよく成し得なかつた。

然し、ナポレオンには、史上最大の敗北を喫した瞬間に、實は、毒物を嚥下して死を圖つた事實がある。ただ嚥下した後の無明の夜についての記述がナポレオン崇拜の史家の手

國で開かれた最初の世界教育大會(第七回のものであつたと思ふ)の開催中であつて、事の騒ぎを出来るだけ來客の耳にまでは入れずに済し度いやうに、その接待等にも特に心が配られるやうな有様でした。それが早や滿三年の昔となつて、時局はいよゝゝ進展の一路を辿つて居ます。勿論その一方は、時局解決の道で

性、と云ふ中に、目下政府筋からの選みによつて、各種の委員、専門委員に推薦された人々があります。これらの人々は、目下云はんとして口なき女性のために、當局に有つて云ふ可き機會も恵まれて居る次第です。この人々に従來の日本婦人の何人もが與へられなかつた種々の機會や又道程が與へられる譯です。従つて

中將姫の傳説

私が蓮の研究からどうして中將姫の傳説と當麻曼陀羅に興味をもちはじめたかをさきに述べよう。大和(奈良縣北葛飾郡當麻村)の當麻寺には有名な當麻曼陀羅(極樂淨土の圖)がある。これは約千二百年前中將姫が感得したものであるといはれ、その生地は蓮の糸であると云はれて來た。これについては後に詳しくのべることにして、私の中將姫に對

供は授けるが、そのかほりの子が三歳になると夫婦のちどちらかが死ななければならぬ、これを子供と思つてよと、白色の蓮花の花をかけた。やがて女の子が生まれたが、誕生の夜天皇の御夢に異形の僧が現れて、豊成のは、やがて世を救ふべき任をもつて生まれたのだから、官名をお授けになるやうに申し上げたので、たゞちに將の官名をお許しになつた。これから中將姫とよばれる

皇帝の寢臺の傍に駆けつけると、火を起す事を命じられた。部屋が冷えて来たため、皇帝は寝つかれなかつたのである。用事が終るとユベールは自分の寢臺に戻つたが、そのまゝ寝ないで見張りをつゞけてゐた。

半開きになつた扉口の向ふ側でナポレオンが寢臺から起き上るのをユベールは見た。皇帝は室内を往き來しはじめた。そして幾度か机に向つては紙片の上に何か書きつけてゐる様子だつた。だがその度に皇帝はそれを破いては反古を火の中に投げ込んだ。

佛蘭西の王位を放棄することは非常な苦痛だつた。而も、自らの力で歐洲の殆んど大部分の皇帝と迄なつた身が今や一介の……その結果はどうなる事であらう。それからいたいけな彼の幼兒はどうなる事であらう。

別室からユベールは注意深くナポレオンを見守つてゐた。やがて皇帝は鏡臺の前に行く。と抽出しから何か取り出し、それを水の入つたコップの中に入れてグツと嘔み下した。

いぶかしげに此の行爲を見てゐたユベールは悲劇を直感した。彼はコンスタンの許に駆けつけると彼を叩き起した。「皇帝が何かコップの中へ溶かしてそれを今嘔まれた」

コンスタンは愕然として飛び起きるや、小階段を駆け下りて行つた。ユベールもすぐその後を追つた。此の忠實な二人の侍僕は、呼ばれた時以外には絶對皇帝の部屋に這入つてはならないといふ禁令を冒して寢室に這入つて行つた。這入つて見るとナポレオンは今や苦痛で痙攣を起してゐる最中だつた。毒藥を嚥んだのだ。もう疑ふ餘地はなかつた。

二人は直に急を傳へた。ユベールは宮廷の長い廊下を駆けながら眠つてゐる人達を起して歩いた。「皇帝が毒藥を嚥されましたぞ」

宮殿の内部には一齊に騷擾が點せられ、呼び合ふ聲、口早に取り交す騒ぎ聲で俄かに騒然となつて來た。警護の兵士が右往左往してゐた。皇帝の侍醫イザランに急使が走つた。

バスノ公を探しに走る者もあつた。グルガ将軍も叩き起された。皇帝と最も親しいコランクールも呼び起された。ナポレオンがその軍隊をロシアの雪野原に放り出して逃げ歸つた時、彼につき従つてゐたのは實に此のコーランクールだつたのである。

此の混亂の中でコンスタンははずつと皇帝の傍を離れなかつた。ナポレオンはもう殆んど口も利けない程になつてゐた。彼は息苦しさうに喘ぎながら此の忠實な侍僕に向つて云つた。「コンスタン、余は死ぬるのだ。もう是れ以上苦惱には堪へられぬ。外國の奴共は此の身が包圍されて、辱かしめを受けて、黙つてゐられると思ふか、奴共は余の驚を泥まみれにして……」

痙攣で彼の顔が歪んだ。侍僕はちつと彼の顔を見つめた。皇帝は更に語をついで、昔の盟友が如何に彼を見捨て、裏切つたかといふ事を訴へた。

コンスタンは煙突の傍の床の上に、黒い絹

國で開かれた最初の世界教育大會(第七回のものであつたと思ふ)の開催中であつて、事の騒ぎを出来る丈け來客の耳にまでは入れずに済し度いやうに、その接待等にも特に心が配られるやうな有様でしな。それが早や滿三年の昔となつて、時局はいよゝゝ進展の一路を辿つて居ます。勿論その一方は、時局解決の道で

に津々浦々から國を擧げて動員された婦人等でせう。中には如何はしき業態業者をも含んでは居りますが、然し前線に在り又國內に在つて矢張國家の一員として自覺をもつて立つ時、それは女性國民である以外何者でもありません。かゝる人々によつて前線軍醫、看護婦さへ間に合ぬ戦線で、將兵の助けられ又奉仕

性、と云ふ中に、目下政府筋からの選みによつて、各種の委員、専門委員に推薦された人々があります。これらの人々は、目下云はんとして口なき女性のために、當局に有つて云ふ可き機會も恵まれて居る次第です。この人々に従來の日本婦人の何人もが興へられなかつた種々の機會や又道程が興へられる譯です。従つて

史の如き、慥かにその一人であると申されませう。又北支北京に於ける清水氏夫妻、その周囲を取りまく多くの人々特に北京天橋における池永女醫、北海道子女史の如きその一人です。最近また中支に於てかうした婦人等が見出されます。それは今度大阪の林歌子女史がわざゝゝその發會に參列のため赴かれた上海

私が蓮の研究からどうして中將姫の傳説と當麻曼陀羅に興味をもちはじめたかをさきに述べよう。大和(奈良縣北葛飾郡當麻村)の當麻寺には有名な當麻曼陀羅(極樂淨土の圖)がある。これは約千二百年前中將姫が感得したものといはれ、その生地は蓮の糸であると云はれて來た。これについては後に詳しくのべることにして、私の中將姫に對

供は授けるが、そのかほしの子が三歳になると夫婦のちどちらかが死ななければならぬ、これを子供と思つてよと、白色の蓮花の花を授けた。やがて女の子が生まれたが、誕生の夜天皇の御夢に異形の僧が現れて、豊成のは、やがて世を救ふべき任をもつて生まれたのだから、官名をお授けになるやうに申し上げたので、たゞちに將の官名をお許しになつた。これから中將姫とよばれる

中將姫の傳説

史の如き、慥かにその一人であると申されませう。又北支北京に於ける清水氏夫妻、その周囲を取りまく多くの人々特に北京天橋における池永女醫、北海道子女史の如きその一人です。最近また中支に於てかうした婦人等が見出されます。それは今度大阪の林歌子女史がわざゝゝその發會に參列のため赴かれた上海

の情景を自撃した者の口から、微かな、駭しつづいたやうなすゝり泣きの聲が洩れた。

小心者の侍醫のイヴァンはすつかり我を失つてしまつた。彼は皇帝の侍醫としてナポレオンの毒死を救つた廉でバリの同盟軍に罪に問はれる事を恐れた。かと云つてフォンテンブローに止まつてゐても、若し皇帝が死んだら職務怠慢の廉で罪に問はれるだらう事を恐れた。恐怖はいとして、醜態な事には、彼は既に駆け込み、前線を無事通過出来るやうにと、白いハンカチを腕に巻きつけ、一頭の馬に飛び乗るや、眞夜中の闇をバリに向つて一目散に逃げ出して行つた事だつた。

皇帝は漸く眼を醒すと、落ち窪んだ疲れ切つた眼で周囲のものを確かめるやうな様子をした。と後になつてコーランクールは述べて

みる。現世の凡ゆる苦惱が、虚ろな、佗しげな彼の表情の中にまぎ／＼と刻まれてゐた。「神は余を殺す事を望まなかつたのだ」と彼は云つた。「余は死ぬる事も出来なかつた」それに對してコーランクールは應へた。

「陛下、陛下の御息と、陛下の御名の永久に滅びないであらう佛蘭西が、陛下に悲運を耐へるべき義務を課したのです」一息子、息子！ 哀れにも、あれに遺すものは何もないのだ。王者として生れたあれに、今は住む國もないのだ。何故余は死ねなかつたのだらう」

彼は更に佛蘭西について語つた。彼は既に捨て去られた事を感じてゐた。彼はその戦歴が一人の人間として過ぎたる榮光に充ちてゐる事を思へば、王位を失ふ位の事は大した事ではないとも云つた。運命の變轉も忍び得ない事ではないとも云つた。だが、ただ一つ彼の胸を無慘にも引き裂くものがあつた。「それは人間の卑劣さと淺ましい忘恩だ。此の卑劣さと對ひ合つて生きて行く事に余は恐

怖を感じる。死は休息だ……余が此の二十年間苦しんで来た事は恐らく理解されることはないだらう」

彼は是等の言葉を吐いてゐる時、曉の光りは既にカーテンを透して寢室に射し込み、マシテルの上の時計が五時をうつつた。新しい日が始つてゐた。皇帝は大分回復して元氣になつてゐた。もう一人で寢室から起き上つて、カーテンを開き、朝の光りを部屋一杯にいれる事も出来るやうになつてゐた。新しい日が始つてゐた。

彼はあの厭はしいインキにペンを浸して書類に署名するだけの力も出てゐた。しつかりした手許で彼は無條件退位の署名を終へた。彼は全歐の王座を奪はれ、小島エルバに流罪の生を得た。そこで再び希望が彼の胸に湧き上つたのである。

(海南 基 忠 譯)

國で開かれた最初の世界教育大會(第七回のものであつたと思ふ)の開催中であつて、事の騒ぎを出来るだけ來客の耳にまでは入れずに済し度いやうに、その接待等にも特に心が配られるやうな有様でした。それが早や滿三年の昔となつて、時局はいよ／＼進展の一路を辿つて居ます。勿論その一方は、時局解決の道で

中將姫の傳説

私が蓮の研究からどうして中將姫の傳説と當麻曼陀羅に興味をもちはじめたかをさきに述べよう。大和(奈良縣北葛飾郡當麻村)の當麻寺には有名な當麻曼陀羅(極樂淨土の圖)がある。これは約千二百年前中將姫が感得したものといはれ、その生地は蓮の糸であると云はれて來た。これについては後に詳しくのべることにして、私の中將姫に對

に津々浦々から國を擧げて動員された婦人等せう。中には如何はしき業態業者をも含んでは居りますが、然し前線に在り又國內に在つて矢張國家の一員として自覺をもつて立つ時、それは女性國民である以外何者でもありません。かゝる人々によつて前線軍醫、看護婦さへ間に合ぬ戦線で、將兵の助けられ又奉仕供は授けるが、そのかた、の子が三歳になると夫婦のちどちらかが死ななければならぬ、これを子供と思つてよと、白色の蓮花の花を咲けた。やがて女の子が生まれたが、誕生の夜天皇の御夢に異形の僧が現れて、豊成のは、やがて世を救ふべき任をもつて生まれたのだから、官名をお授けになるやうに申し上げたので、たゞちに將の官名をお許しになつた。これから中將姫とよばれる

性、と云ふ中に、目下政府筋からの選みによつて、各種の委員、専門委員に推薦された人々があります。これらの人々は、目下云はんとして口なき女性のために、當局に有つて云ふ可き機會も恵まれて居る次第です。この人々に従來の日本婦人の何人もが與へられなかつた種々の機會や又道程が與へられる譯です。従つて史の如き、慥かにその一人であると申されませう。又北支北京に於ける清水氏夫妻、その周囲を取りまく多くの人々に特に北京天橋における池永女醫、鳥海道子女史の如きその一人です。最近また中支に於てかうした婦人等が見出されます。それは今度大阪の林歌子女史がわざ／＼その發會に參列のため赴かれた上海、

ナポレオン自殺願末記

改定十月部

マニユエル・コムロフ

獨裁者が自らその生命を断つといふ事は餘程困難な事であるらしい。

彼は生命を愛する。彼は榮光に憧れ、權勢と威力に無限の執着を持つてゐる。獨裁者であるからと云つて、常に肉體的な勇氣を強く

卒然として己れの遂行すべき重大な使命を發見する。再び勇氣が蘇つて來るのである。

若し獨逸が歐洲制覇に破れたならばヒットラー總統は果して自殺するであらうか。彼は一九二三年、ミュンヘンのクーデターに若し

つに如かないと誓つた獨裁者は他にもある。而も歴史は未だ曾つて獨裁者の自殺を記録した例を持たない。

自我は如何に惨めな敗北よりも強いのである。曠世の偉傑ナポレオンでさへも、常に毒



【回七第】

中將姫と當麻曼茶羅

理學博士大賀一郎

する興味は實はこゝから生じたのである。

中將姫といつても今では知らない人も多いと思ふから、先づその傳説の大略を話しておかう。

聖武天皇の御代、右大臣藤原豊成公は、天皇に崇りをなす惡靈を退治した功によつてその頃並ぶ者なき美女紫の前と結婚し、いよいよ忠誠をば

豊成夫妻は家臣國岡將監の妻を乳母としていつくしみ育て、あるうちに、中將は五歳になつた。紫の前は或る日、長谷の觀世音の夢のお告げのことを思ひ出して、「姫が五歳になつても夫婦は二人とも無事だが、神や佛も嘘をいふことがあると見え」と何の氣もなく云つたところ、にはかに重い病にかゝつて死んでしまつた。

姫が七歳になると、豊成公は橋本諸兄公の女照夜の前を後添に娶つた。そのうちにあるとき帝の前で音楽を奏する

中將は母が自分を殺さうとしてゐるのをよく知つてゐるが、そんなことは色にも出さず、心優しく母に仕へつゝ、早くも十三歳になつた。しかし、彼女は浮世の榮華には目もくれず、ひたすら經文を讀んで佛の道をきはめようとしてゐる。

このあひだにも照夜の前の奸謀はやまず、つひに姫に不義の濡衣をきせ、豊成が諸國巡視の留守中に松井嘉藤太といふ家臣に領土紀伊の雲雀山(大和とも云ふ)へ連れて行つて殺させようとする。嘉藤太は雲雀山まで

が不義を働いて駈落かされ、その後は急して樂しまなかつた日雲雀山へ狩に行つてと對面する。嘉藤太一切をきかされて驚

中將姫の傳説

私が蓮の研究からどうして中將姫の傳説と當麻曼陀羅に興味をもちはじめたかをさきに述べよう。大和(奈良縣北葛飾郡當麻村)の當麻寺には有名な當麻曼陀羅(極樂淨土の圖)がある。これは約千二百年前中將姫が感得したものと

いはいはれ、その生地は蓮の糸であるといはれて來た。これについては後に詳しくのべることにして、私の中將姫に對

しては後に詳しくのべることにして、私の中將姫に對

嘉藤太は病死したが、その妻と姫はなほ人目にもかゝらず雲雀山にほそぼそと暮してゐた。豊成公は照夜の前から姫

かす事実はやがてわ夜の前は後悔のあま

改定十月号

ポレオン自殺顛末記

マニユエル・コムロフ

生命を断つといふ事は餘
彼は榮光に憧れ、權勢
持つてゐる。獨裁者で
市に肉體的な勇氣を強く

卒然として己れの遂行すべき重大な使命を發
見する。再び勇氣が蘇つて来るのである。
若し獨逸が歐洲制覇に破れたならばヒット
ラー總統は果して自殺するであらうか。彼は
一九二三年、ミュンヘンのクーデターに若し

つに如かないと誓つた獨裁者は他にもある。
而も歴史は未だ曾つて獨裁者の自殺を記録し
た例を持たない。
自我は如何に惨めな敗北よりも強いのであ
る。曠世の偉傑ポレオンでさえも、常に毒

【回七第】

中將姫と當麻曼茶羅

理學博士 大賀 一郎

する興味は實はこゝから生じ
たのである。

中將姫といつても今では知
らない人も多いと思ふから、
先づその傳説の大略を話して
おかう。

聖武天皇の御代、右大臣藤
原豊成公は、天皇に崇りをな
す悪靈を退治した功によつて
その頃並ぶ者なき美女紫の前
と結婚し、いよいよ忠誠をは
げみ、天皇の御覺えもめでた
かつた。ところが二人のあひ
だには何年たつても子供がで
きないので、長谷の觀音に祈
願したところ、七日目の朝夢
に觀世菩薩があらはれ、子
供は授けるが、そのかはりこ
の子が三歳になると夫婦のう
ちどちらかが死ななければな
らぬ、これを子供と思つて育
てよと、白色の蓮花の花を授
けた。やがて女の子が生まれ
たが、誕生の夜天皇の御夢に
異形の僧が現れて、豊成の子
は、やがて世を救ふべき任務
をもつて生まれたのだから、
官名をお授けになるやうにと
申し上げたので、たゞちに中
將の官名をお許しになつた。
これから中將姫とよばれるや

うになつたのである。
豊成夫妻は家臣國岡將監の妻
を乳母としていつくしみ育て、
あるうちに、中將は五歳になつ
た。紫の前は或る日、長谷の觀
世の夢のお告げのことを思ひ
出して、「姫が五歳になつても
夫婦は二人とも無事だが、神や
佛も嘘をいふことがあると見え
る」と何の氣もなく云つたこ
ろ、にはかに重い病にかゝつて
死んでしまつた。

姫が七歳になると、豊成公
は、橘諸兄公の女照夜の前を
後添に娶つた。そのうちにあ
るとき帝の前で音楽を奏する
會があり、才色兼備、幼いけ
れども和歌管絃の道をわきま
へた中將姫は帝の前に大いに
面目をほどこしたが、照夜の
前は筆の心得がないのに筆の
役にあたつて、公衆の前に恥
をかいてしまつた。それから
照夜の前は中將に對して嫉妬
の炎を燃やすやうになつた。
殊に自分の腹を痛めた豊壽丸
が生まれてからは、この子に
家をつがせるためには、姫を
殺すより他に途はないと考へ
始めた。

このあひだにも照夜の前の奸
謀はやまず、つひに姫に不義の
濡衣をきせ、豊成が諸國巡視の
留守中に松井嘉藤太といふ家臣
に領土和伊の雲雀山(大和とも
云ふ)へ連れて行つて殺させよ
うとする。嘉藤太は雲雀山まで
姫を連れて行つたが、どうして
も殺すことができず、上役の國
岡將監に相談の末、將監の娘を
身代りとし、その首を持參して
照夜の前をだまし、自分は妻と
共に雲雀山にかへつて、姫に仕
へることになる。

やがて二年の歳月が流れ、
嘉藤太は病死したが、その妻
と姫はなほ人目にもかゝらず
雲雀山にほそぼそと暮してゐ
た。豊成公は照夜の前から姫

が不義を働いて墮落したとき
かされ、その後は急に力を落
して樂しまなかつたが、ある
日雲雀山へ狩に行つて偶然姫
と對面する。嘉藤太の妻から
一切をきかされて驚き、すぐ
に都へ連れ歸らうとするが、
姫は今自分が歸つては母の立
場がなくなるから、それだけ
は許してくれと頼む。そこで
豊成は姫に誰にもわからぬや
うに一室にかくまふことを約
してやつと連れでかへる。し
かし事實はやがてわかり、照
夜の前は後悔のあまり行方不
明になつてしまふ。

かうして自分のために幾人
もの人が命をおとしたことを
思ふにつけ、姫はひたすら佛
の道に入ることを考へ、つひ
に嘉藤太の妻と共に當麻寺に
入り、天平寶字七年六月十五
日十七歳にして剃髮、法如比
丘尼と名を改めた。その日か
ら法如はひたすら佛の道を感じ
得せんものと斷食して祈願を
籠めた。ところが十七日にな
ると一人の老尼が現れ、百駄
の蓮莖を集めよと告げて去つ
た。法如は自分の力では及ば
ないので、父豊成に願ひ、帝
のお觸れによつて近江、河内
大和の三國から集めて貰つた
するとさきの老尼が現れ、莖

傳説

九からどうして
當麻曼陀羅に
めたかをさき
和(奈良縣北
の當麻寺には
極樂淨土
これは約千二
感得したもの
生地は蓮の糸
て来た。これ
詳しくのべる
の中將姫に對

それから中將姫とよばれるや
うになつたのである。
豊成夫妻は家臣國岡將監の妻
を乳母としていつくしみ育て、
あるうちに、中將は五歳になつ
た。紫の前は或る日、長谷の觀
世の夢のお告げのことを思ひ
出して、「姫が五歳になつても
夫婦は二人とも無事だが、神や
佛も嘘をいふことがあると見え
る」と何の氣もなく云つたこ
ろ、にはかに重い病にかゝつて
死んでしまつた。

姫が七歳になると、豊成公
は、橘諸兄公の女照夜の前を
後添に娶つた。そのうちにあ
るとき帝の前で音楽を奏する
會があり、才色兼備、幼いけ
れども和歌管絃の道をわきま
へた中將姫は帝の前に大いに
面目をほどこしたが、照夜の
前は筆の心得がないのに筆の
役にあたつて、公衆の前に恥
をかいてしまつた。それから
照夜の前は中將に對して嫉妬
の炎を燃やすやうになつた。
殊に自分の腹を痛めた豊壽丸
が生まれてからは、この子に
家をつがせるためには、姫を
殺すより他に途はないと考へ
始めた。

このあひだにも照夜の前の奸
謀はやまず、つひに姫に不義の
濡衣をきせ、豊成が諸國巡視の
留守中に松井嘉藤太といふ家臣
に領土和伊の雲雀山(大和とも
云ふ)へ連れて行つて殺させよ
うとする。嘉藤太は雲雀山まで
姫を連れて行つたが、どうして
も殺すことができず、上役の國
岡將監に相談の末、將監の娘を
身代りとし、その首を持參して
照夜の前をだまし、自分は妻と
共に雲雀山にかへつて、姫に仕
へることになる。

やがて二年の歳月が流れ、
嘉藤太は病死したが、その妻
と姫はなほ人目にもかゝらず
雲雀山にほそぼそと暮してゐ
た。豊成公は照夜の前から姫

が不義を働いて墮落したとき
かされ、その後は急に力を落
して樂しまなかつたが、ある
日雲雀山へ狩に行つて偶然姫
と對面する。嘉藤太の妻から
一切をきかされて驚き、すぐ
に都へ連れ歸らうとするが、
姫は今自分が歸つては母の立
場がなくなるから、それだけ
は許してくれと頼む。そこで
豊成は姫に誰にもわからぬや
うに一室にかくまふことを約
してやつと連れでかへる。し
かし事實はやがてわかり、照
夜の前は後悔のあまり行方不
明になつてしまふ。

かうして自分のために幾人
もの人が命をおとしたことを
思ふにつけ、姫はひたすら佛
の道に入ることを考へ、つひ
に嘉藤太の妻と共に當麻寺に
入り、天平寶字七年六月十五
日十七歳にして剃髮、法如比
丘尼と名を改めた。その日か
ら法如はひたすら佛の道を感じ
得せんものと斷食して祈願を
籠めた。ところが十七日にな
ると一人の老尼が現れ、百駄
の蓮莖を集めよと告げて去つ
た。法如は自分の力では及ば
ないので、父豊成に願ひ、帝
のお觸れによつて近江、河内
大和の三國から集めて貰つた
するとさきの老尼が現れ、莖

をとつて糸を出し、これを井戸の水に浸すと、糸はたちまち五色に染まつた。

そこへ更に容貌端麗の化女が現れ、その糸を以て約六時間のあひだに一丈三尺四方の大曼陀羅を織つた。

これを本堂の正面にかけて拜み中將は佛道を感じたといふ。老尼は彌陀佛、化女は觀世音で今から十三年後に會はうと云つて消え去つた。

さて中將法如の名と蓮糸の大曼陀羅の奇蹟は諸國にきこえ、參詣人ひきもきらぬ有様となり法如は益々行ひすまして、後には數多の弟子もできたが、十三年の後寶龜六年二十九歳の四月十四日、約東通り彌陀佛の御來迎を得て眠るが如く入寂したといふ。

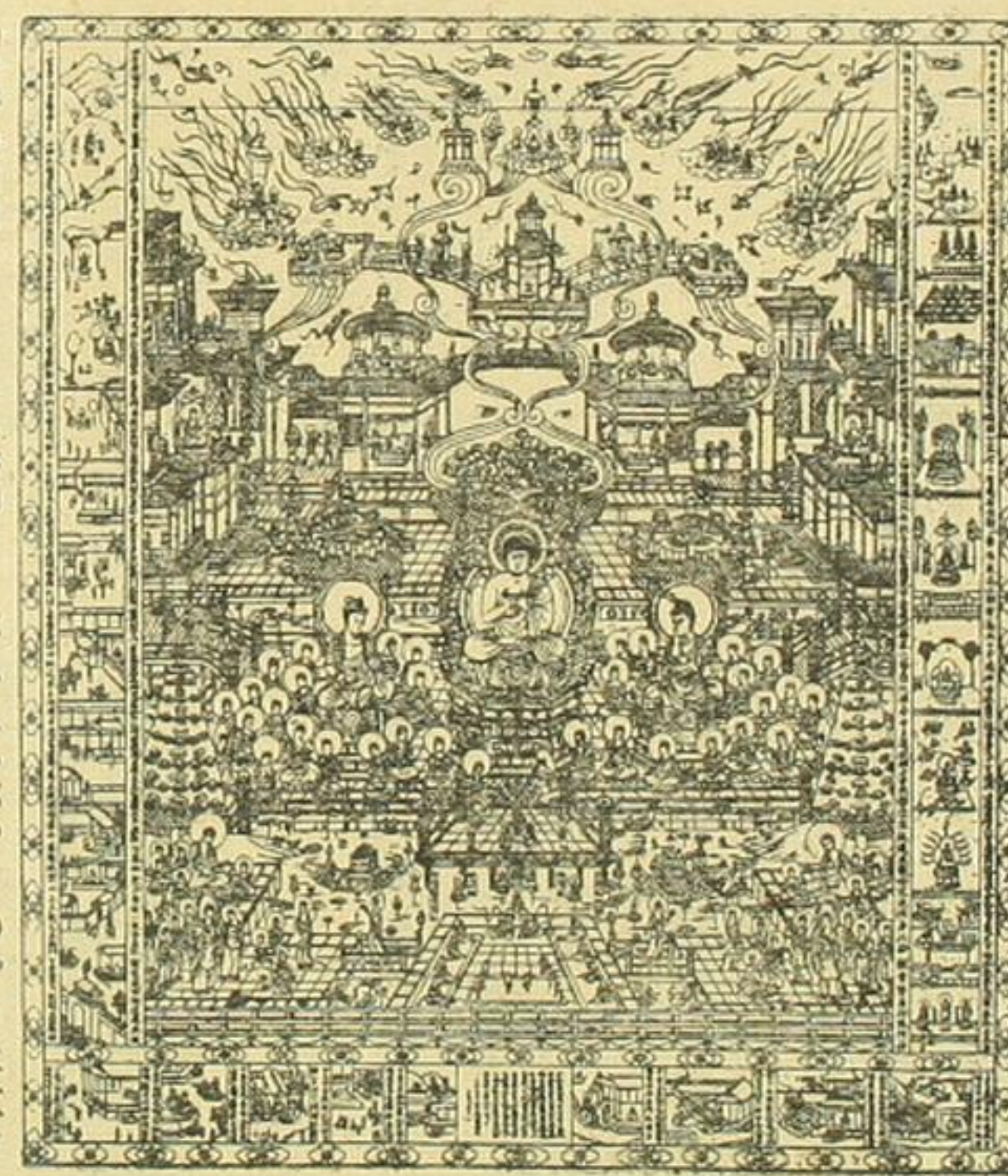
傳説の意義

豐成の息女が當麻曼陀羅を感じたといふことが書かれたものゝうち、最も古いのは天平寶字七年より二百數十年後、長和寛仁の頃に成つた諸寺縁記集であるが、この中には中將姫といふ名はなく、更に二百數十年たつた室町時代に始めてあらはれてゐる。

少し長くなつたが、右の傳説ははじめ藤原豐成の息女とだけあつたものへ、織子いじめの話がつけ加へられ、淨土宗がひろまると共に全國に傳へられたものであらう。物語は要するに、中將姫といふ人

物に佛教の最高の理想を表現させたもので、いくら唐められても織母を怨むことなく、佛の道に精進してつひに悟りを開いたといふ萬國共通の悲話が非常に人を感動させたのであらう。

この物語はやがて芝居にもなり淨瑠璃にもなつて、徳川時代になると非常にもはやまれ、



「中將姫法語」などいふ書物さへ表れて、大きな社會的役割を果してゐるのである。

曼陀羅の考察

さて當麻曼陀羅であるが、私の研究の目的はこの方にあるのである。この曼陀羅の大きさは約一丈三尺四方、中央の大部分は極樂淨土を表す壯麗な圖で、その周囲は一人の婦人が悟りを開くまでの經過を圖示してある。何度も修理

が加へられたので、原本の繪はほとんどわからないが、この中にある生物の數だけでも六百あるといふ一例でもわかる通り、きはめて複雑、細緻なものである。

これは傳説によると蓮の糸で織つたとあるが、私のみるところでは絹糸である。蓮の糸で織物のできることはまち

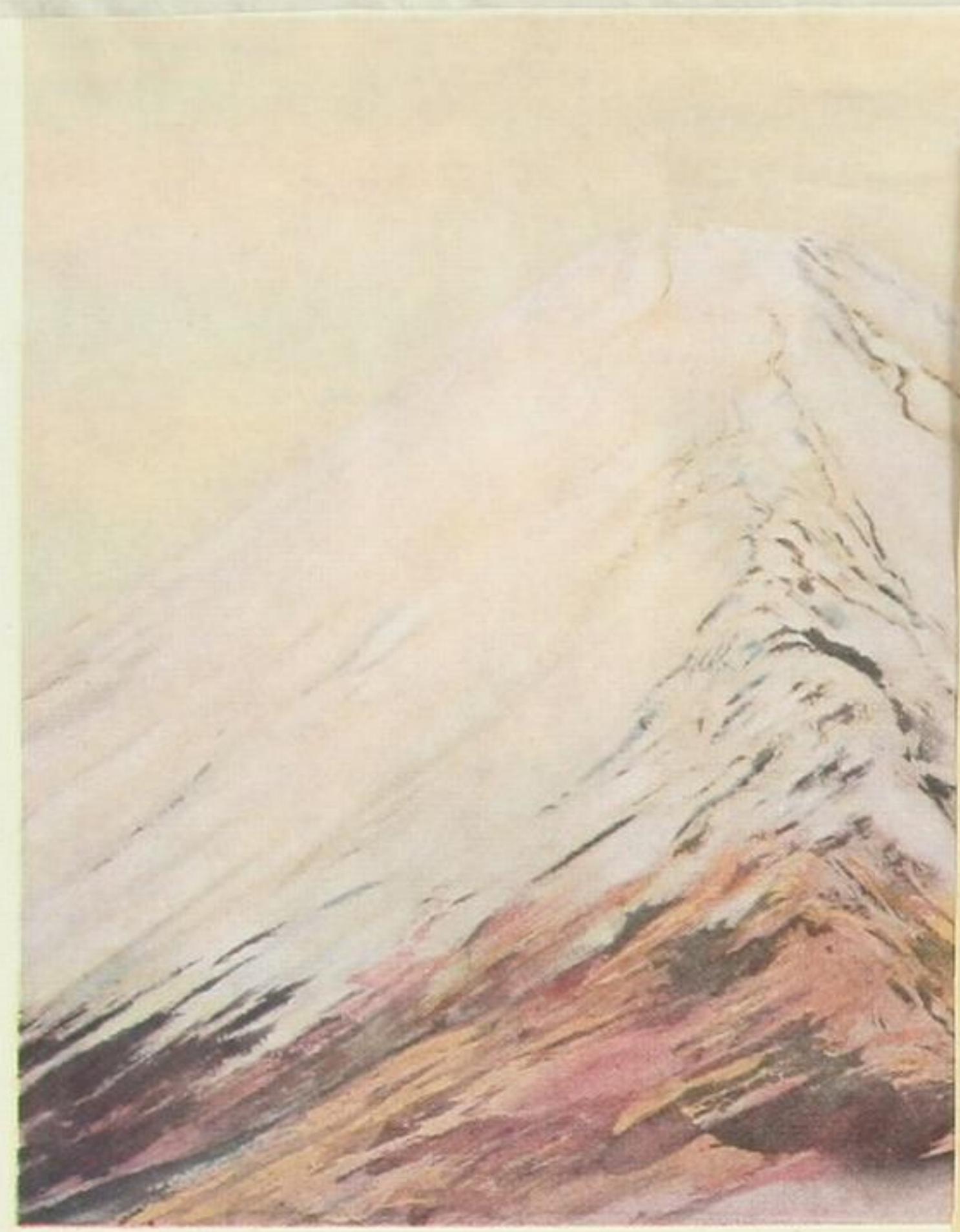
ば四十年かゝるものである。千二百年前にかゝる織物があつたとするとこれは正に織物の神様である。

問題は更に進んで、これが唐から渡つてきたものであるか、わが國で織られたものであるかといふことになるが、それはまだ幾多の疑問を残してゐる。たゞ圖案は唐から来たものに相違ないといふことは圖中の人物の服装をみて斷定することができる。もしわが國で織られたものだとして、日本の染織文化は世界に誇るべきものであると思ふ。

中將姫が單なる傳説の存在にすぎないことは、文献によつて明らかであるが、もし中將姫と現存する曼陀羅の造立とを強ひて結びつけようとするならば、往時何人かによつて完成された(望月博士は明天武后の作ではないかといはれてゐる)この信仰の一大織物が、後年中將姫といふ名によつて云ひあらはされてある一人の貴女の名によつて大和當麻寺に奉納され、今日に至つてをるとするのが最も妥當な見解ではなからうか。

私の研究は蓮の實から始まつて花に行き、糸に入り、更に中將姫に轉じて今は古美術の自然科学的研究に入つたが、當麻曼陀羅の研究だけでも、まだ十年くらゐはかゝると思つてゐる。

次は大賀氏の指名で
文學博士
伊原青々園氏



曉の靈峰 山元櫻月

をとつて糸を出し、これを井戸の水に浸すと、糸はたちまち五色に染まつた。そこへ更に容貌端麗の化女が現れ、その糸を以て約六時間のあひだに一丈三尺四方の大曼陀羅を織つた。

これを本堂の正面にかけて拜み中將は佛道を感じたといふ。老尼は彌陀佛、化女は觀世音で今から十三年後にはうと云つて消え去つた。

さて中將法如の名と蓮糸の大曼陀羅の奇蹟は諸國にきこえ、參詣人ひきもきらぬ有様となり



この物語はやがて芝居にもなり滑稽にもなつて、徳川時代になると非常にもはやまれ、糸で織物のできることはまち

が加へられたので、原本の繪はほとんどわからないが、この中にある生物の数だけでも六百あるといふ一例でもわかる通り、きはめて複雑、細緻なものである。

これは傳説によると蓮の糸で織つたとあるが、私のみるところでは絹糸である。蓮の糸で織物のできることはまち

問題は更に進んで、これが唐から渡つてきたものであるか、わが國で織られたものであるかといふことになるが、それはまだ幾多の疑問を残してゐる。たゞ圖案は唐から来たものに相違ないといふことは圖中の人物の服装をみて斷定することができる。もしわが國で織られたものだとする

昔讀んだ本のこと

宮田 齊

私が小學校に通つてゐた頃父の親友だつた杉谷代水先生から先生御自身で翻譯されたアラビヤナイト物語二巻を贈られた。丈の高い華麗な装釘の書物で本文は各頁とも色彩鮮かな縁模様で囲まれ、波

呉れた父母の心遣が、聽て私達に此等の古い物語を紹介する縁となつたのである。馬琴譯北齊畫といふいかめしいもの乍ら、その魅力は新鮮だつた。就中西遊記の奇想天外な挿話の數々はアラビヤ物語の

妻子を残し、志を遂げずに世を去つて了つた。病床に呻吟すること一年その間私達は屢々苦勞の多い生活上の問題に就て意見を交はし合つたり、勵まし合つたりした。しかしさうした生々しい現實の問題と取組んだ後の精神の疲勞はいつもその昔の夢幻の世界の物語を反復する樂しさで拭ひ去られるのだつた。

三國志の世界は此等の奇譚とは異つて矢張り少年時代に耽讀した木村長門や、眞田幸村の武勇傳などが描き出す行動的な世界と通ずる剛毅瀟灑なものであつた。徐々に衰運に傾かんとする漢室の裔を扶け、曹操百萬の大軍を向ふに廻して勇戦力闘する凛々乎たる關羽、張飛の氣概は、孤城落日の豊臣方を護つて時代の



曉の靈峰 山元櫻月

